

平成30年度 全国学力・学習状況調査

調査結果のポイントについて

～北海道（公立）における調査結果～

北海道教育委員会

平成30年7月31日

【 目 次 】

1. 調査の概要	1
2. 結果の概要	2
■ 教科に関する調査	
■ 児童生徒質問紙調査	
■ 学校質問紙調査	
3. 教科に関する調査	
■ 小学校〈国語、算数、理科〉.....	4
■ 中学校〈国語、数学、理科〉.....	14
■ 過去の同一問題との比較	27
4. 質問紙調査	28
【参考】札幌市を除く北海道の調査結果	34

1. 調査の概要

1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

- 小学校、義務教育学校前期課程、特別支援学校小学部の第6学年の児童
- 中学校、義務教育学校後期課程、中等教育学校、特別支援学校中学部の第3学年の生徒

3 調査の内容

- ① 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）
 - ・主として「知識」に関する問題（A）
 - ・主として「活用」に関する問題（B）※ 理科は（A）と（B）を一体的に出題
- ② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
 - ・児童生徒に対する調査
 - ・学校に対する調査

4 調査の方式

悉皆調査

5 調査の実施日

平成30年4月17日（火）

6 平成30年4月17日（火）に調査を実施した学校数・児童生徒数

北海道（公立）

〔参考〕全国（公立）

	対象学校数(校)	実施学校数(校)(実施率)	児童生徒数(人)		対象学校数(校)	実施学校数(校)(実施率)	児童生徒数(人)
小学校	1,016	1,012(99.6%)	39,617	小学校	19,433	19,386(99.8%)	1,030,031
中学校	590	589(99.8%)	39,683	中学校	9,630	9,597(99.7%)	967,196
合計	1,606	1,601(99.7%)	79,300	合計	29,063	28,983(99.7%)	1,997,227

※ 札幌市を含む。

※ 小学校には義務教育学校前期課程及び特別支援学校小学部を、中学校には義務教育学校後期課程、中等教育学校及び特別支援学校中学部を含む。

※ 調査期日に実施できなかった学校は、実施学校数に含まれていない。

【調査結果の解釈等に関する留意事項】

- 本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意する必要がある。
- 本調査の結果においては、平均正答数、平均正答率等の数値を示しているが、これらの数値のみで必ずしも調査結果のすべてを表すものではなく、中央値*1、標準偏差*2等の数値や分布の状況を表すグラフの形状など他の情報と合わせて総合的に結果を分析・評価する必要がある。また、個々の設問や領域等に注目して学習指導上の課題を把握・分析し、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることも重要である。
- 北海道の各教科の平均正答率については、国が公表した整数値と、国から提供されたデータをもとに道教委が独自に算出した小数値で示している。

*1 中央値：集団のデータを大きさの順に並べた時に、真ん中に位置する値。平均値とともに集団における代表値として捉えられる。

*2 標準偏差：集団のデータの平均値からの離れ具合（散らばりの度合い）を表す数値。標準偏差が0とは、ばらつきがない（データの値がすべて同じ）ことを意味する。

2. 結果の概要

■ 教科に関する調査

○ 平均正答率の小数值での比較

- ・ 中学校国語A、理科で全国を上回り、国語Bで全国と同じ。
- ・ 昨年度と比べて、全国との差が小学校国語A、中学校数学Bで縮まり、小学校国語B、算数B、中学校数学Aで広がった。
- ・ 小学校は、すべての教科で全国との差が2.8ポイント以内（平成29年度2.4ポイント以内）。
- ・ 中学校は、すべての教科で全国との差が1.2ポイント以内（平成29年度1.2ポイント以内）。

○ 平均正答率の整数値での比較

- ・ 中学校国語A、理科で全国を上回り、国語Bで全国と同じ。

各教科の平均正答率

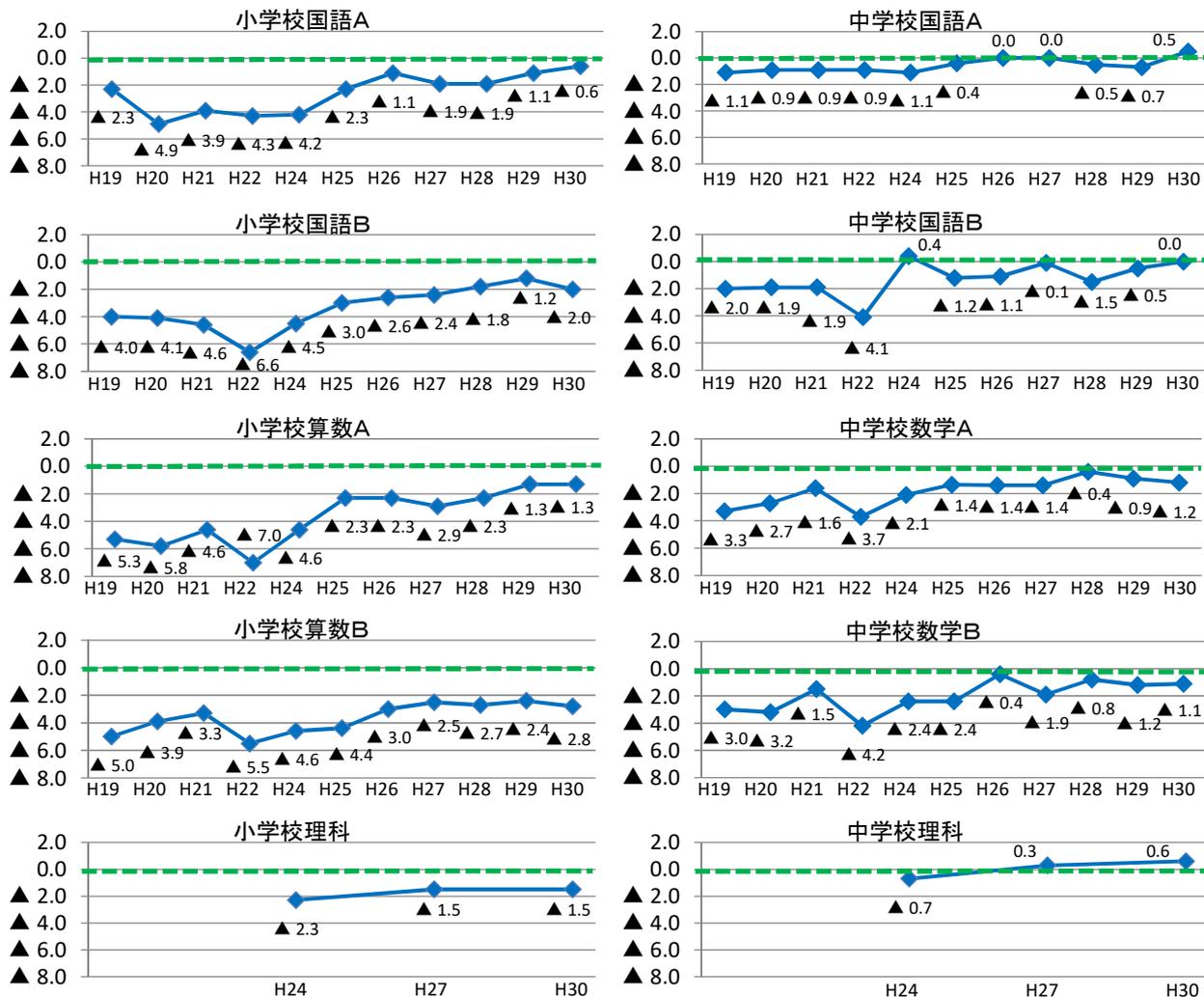
		小学校					中学校				
		国語A	国語B	算数A	算数B	理科	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
平均正答率 (%)	道	70[70.1]	53[52.7]	62[62.2]	49[48.7]	59[58.8]	77[76.6]	61[61.2]	65[64.9]	46[45.8]	67[66.7]
	国	71[70.7]	55[54.7]	64[63.5]	52[51.5]	60[60.3]	76[76.1]	61[61.2]	66[66.1]	47[46.9]	66[66.1]
平均正答数 (問)	道	8.4/12 11.1/15	4.2/8 5.1/9	8.7/14 11.6/15	4.9/10 4.8/11	9.4/16 14.2/24	24.5/32 24.5/32	5.5/9 6.5/9	23.4/36 22.9/36	6.4/14 7.0/15	18.0/27 13.3/25
	国	8.5/12 11.2/15	4.4/8 5.2/9	8.9/14 11.8/15	5.1/10 5.1/11	9.6/16 14.6/24	24.3/32 24.8/32	5.5/9 6.5/9	23.8/36 23.3/36	6.6/14 7.2/15	17.9/27 13.3/25

※ 道の平均正答率：国が公表した整数値 [道教委が独自に算出した小数值]

※ 国の平均正答率：国が公表した整数値 [国が公表した小数值]

※ 上段は平成30年度、下段は平成29年度、理科は上段が平成30年度、下段が平成27年度（小数值のみ公表）

全国と北海道の平均正答率の差



※ H19～H21、H25～H30は悉皆調査で実施。

※ H23は、震災の影響で国は従来の調査としての実施を見送り、道独自で調査を行ったことから、国との比較ができないため非掲載。

※ 数値は、「北海道(公立)の平均正答率－全国(公立)の平均正答率」の差で算出。

■ 児童生徒質問紙調査(グラフはP28、P30～P31、P33に掲載)

() 内は質問番号

- ① 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた児童生徒の割合は、小学校で27.5%、中学校で23.4%であり、全国と比べて、小学校で1.6ポイント、中学校で2.9ポイント低い。(小55、中52)
- ② 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりしている児童生徒の割合は、小学校で33.9%、中学校で31.1%であり、昨年度と比べて、小学校で7.8ポイント、中学校で11.5ポイント高い。全国と比べて、小学校で0.8ポイント、中学校で1.3ポイント低い。(小57、中54)
- ③ 学校のきまりを守っている児童生徒の割合は、小学校で39.8%、中学校で62.0%であり、昨年度と比べて、小学校で3.1ポイント低く、中学校で0.8ポイント高い。全国と比べて、小学校で4.0ポイント、中学校で1.4ポイント低い。(小4、中4)
- ④ 算数・数学の問題について、全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した児童生徒の割合は、小学校で68.5%、中学校で51.2%であり、昨年度と比べて、小学校で1.8ポイント、中学校で0.2ポイント高い。全国と比べて、小学校で2.1ポイント、中学校で4.3ポイント低い。(小37、中37)
- ⑤ 理科の問題について、全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した児童生徒の割合は、小学校で77.3%、中学校で62.1%であり、平成27年度と比べて、小学校で2.7ポイント、中学校で12.6ポイント高い。全国と比べて、小学校で同じ、中学校で0.7ポイント低い。(小51、中51)
- ⑥ 家で、自分で計画を立てて勉強している児童生徒の割合は、小学校で67.6%、中学校で52.6%であり、昨年度と比べて、小学校で2.2ポイント、中学校で1.4ポイント高い。全国と比べて、小学校で同じ、中学校で0.5ポイント高い。(小10、中10)
- ⑦ 普段、1日当たり1時間以上勉強する児童生徒の割合は、小学校で57.1%、中学校で64.7%であり、昨年度と比べて、小学校で同じ、中学校で0.5ポイント高い。全国と比べて、小学校で9.1ポイント、中学校で5.9ポイント低い。(小14、中14)
- ⑧ 放課後に、家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりしている児童生徒の割合は、小学校で86.0%、中学校で82.5%であり、全国と比べて、小学校で5.0ポイント、中学校で5.2ポイント高い。(小16、中16)

■ 学校質問紙調査(グラフはP29、P31～P32に掲載)

() 内は質問番号

- ⑨ 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている学校の割合は、小学校で25.8%、中学校で19.5%であり、全国と比べて、小学校で9.2ポイント、中学校で4.2ポイント高い。(小13、中13)
- ⑩ 習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫を「よく行った」学校の割合は、小学校で38.9%、中学校で32.4%であり、昨年度と比べて、小学校で0.3ポイント、中学校で2.5ポイント高い。全国と比べて、小学校で12.1ポイント、中学校で6.3ポイント高い。(小22、中21)
- ⑪ 学習規律の維持の徹底を「よく行った」学校の割合は、小学校で69.8%、中学校で74.7%であり、昨年度と比べて、小学校で2.1ポイント、中学校で1.0ポイント高い。全国と比べて、小学校で8.0ポイント、中学校で6.4ポイント高い。(小25、中24)
- ⑫ 児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルの確立を「よくしている」学校の割合は、小学校で48.5%、中学校で45.0%であり、昨年度と比べて、小学校で6.7ポイント、中学校で5.3ポイント高い。全国と比べて、小学校で13.7ポイント、中学校で14.3ポイント高い。(小18、中17)
- ⑬ 平成29年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するための活用を「よく行った」学校の割合は、小学校で64.0%、中学校で59.3%であり、昨年度と比べて、小学校で0.1ポイント低く、中学校で3.5ポイント高い。全国と比べて、小学校で21.3ポイント、中学校で25.0ポイント高い。(小31、中30)
- ⑭ 校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を「よくしている」学校の割合は、小学校で77.2%、中学校で72.2%であり、昨年度と比べて、小学校で2.1ポイント、中学校で3.1ポイント高い。全国と比べて、小学校で3.6ポイント、中学校で9.2ポイント高い。(小72、中69)
- ⑮ 学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的な取組を「よくしている」学校の割合は、小学校で64.6%、中学校で60.8%であり、昨年度と比べて、小学校で0.7ポイント、中学校で1.6ポイント低い。全国と比べて、小学校で6.7ポイント、中学校で11.7ポイント高い。(小82、中79)

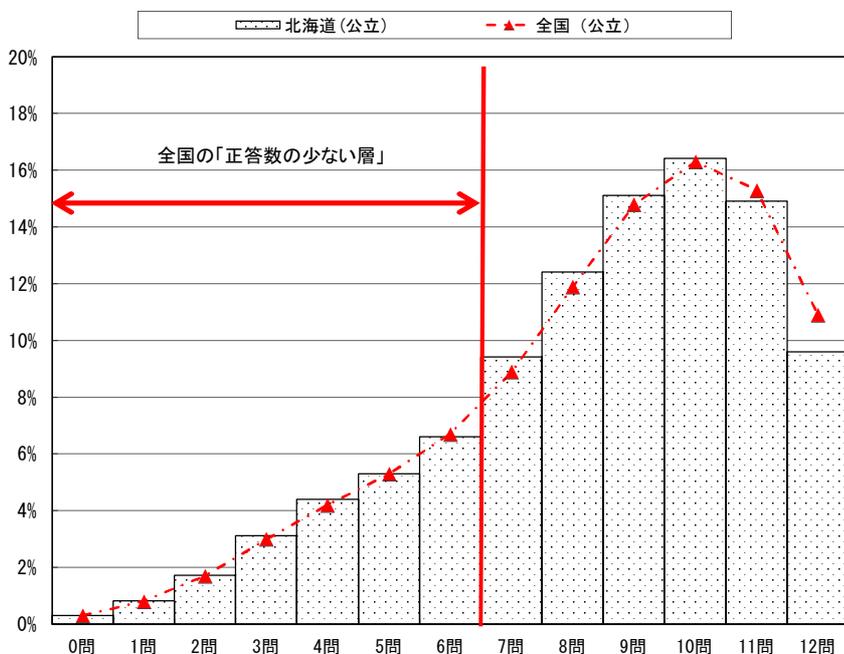
3. 教科に関する調査

■ 小学校国語 A

【概要】

- 平均正答率は70〔70.1〕%
- 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、-1.1ポイント（H29）から -0.6ポイントに縮まった。

	児童数(人)	平均正答数(問)	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北海道(公立)	39,610	8.4 / 12	70〔70.1〕	9.0	2.6
全国(公立)	1,030,025	8.5 / 12	71〔70.7〕	9.0	2.7



※ 全国の「正答数の少ない層」 … 全国の「第1四分位」未満の正答数の範囲

正答数 (児童の割合(%))		
正答数(正答率)	北海道	全国
12問(100.0%)	9.6	10.9
11問(91.7%)	14.9	15.3
△ 10問(83.3%)	16.4	16.3
◇ 9問(75.0%)	15.1	14.8
▽ 8問(66.7%)	12.4	11.9
7問(58.3%)	9.4	8.9
6問(50.0%)	6.6	6.7
5問(41.7%)	5.3	5.3
4問(33.3%)	4.4	4.2
3問(25.0%)	3.1	3.0
2問(16.7%)	1.7	1.7
1問(8.3%)	0.8	0.8
0問(0.0%)	0.3	0.3

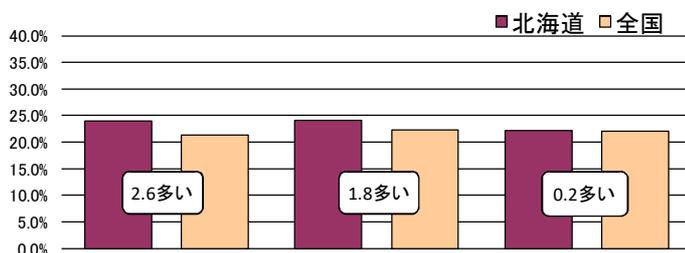
(割合は小数第2位以下を四捨五入)

四分位		
	北海道	全国
第3四分位	△10.0問	11.0問
第2四分位	◇9.0問	9.0問
第1四分位	▽7.0問	7.0問

※ 児童生徒を正答数の大きい順に整理し、人数の割合により4つの層に分ける際の分け目を、大きいものから順に「第3四分位」「第2四分位」「第1四分位」として示した。

■ は、全国の「第1四分位」未満の正答数の児童生徒の割合。

全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる児童の割合



	H28		H29		H30	
	全道	全国	全道	全国	全道	全国
割合	23.9%	21.3%	24.1%	22.3%	22.2%	22.0%
正答数	15問中 8問以下		15問中 9問以下		12問中 6問以下	
全国との差	2.6 多い		1.8 多い		0.2 多い	

- 0.8

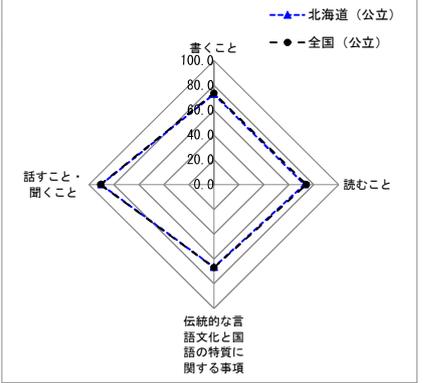
- 1.6

問題別調査結果 [小学校国語A：主として知識]

集計結果

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
			北海道(公立)	全国(公立)	
全体			12	70 (70.1)	71 (70.7)
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	1	90.3	90.8	
	書くこと	1	72.9	73.8	
	読むこと	2	72.5	74.0	
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	8	66.6	67.0	
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0			
	話す・聞く能力	1	90.3	90.8	
	書く能力	1	72.9	73.8	
	読む能力	2	72.5	74.0	
	言語についての知識・理解・技能	8	66.6	67.0	
問題形式	選択式	11	73.3	73.9	
	短答式	1	34.9	35.5	
	記述式	0			

<学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>



問題別集計結果

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点			問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	北海道(公立)	全国(公立)	北海道(公立)
1	図書館への行き方の説明として適切なものを選択する	相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話す	3・4イ					○			○			90.3	90.8	0.0	0.1
2	物語を書くときの構成の工夫の説明として適切なものを選択する	自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成の効果を考える		5・6イ				○			○			72.9	73.8	0.2	0.3
3	【オムレツを作ったあとの感想】を踏まえ、【オムレツのページ】をどのように読めばよいか、適切なものを選択する	目的に応じて必要な情報を捉える			3・4イ			○			○			72.4	73.9	0.1	0.2
4	『くらやみの物語』を読んで心に残ったことを一文を取り上げて説明する際に、その一文が心に残った理由として適切なものを選択する	登場人物の心情について、情景描写を基に捉える			5・6エ			○			○			72.6	74.0	0.2	0.3
5	【春休みの出来事の一部】の中で、……部と……部とのつながりが合っていない文を選択し、正しく書き直す	文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く			3・4(1)イ(キ)					○	○			34.9	35.5	3.3	3.9
6	慣用句の意味と使い方として適切なものを選択する(心を打たれる)	日常生活で使われている慣用句の意味を理解し、使う			3・4(1)ア(イ)					○	○			90.1	90.4	1.4	1.4
7	【話を聞いている様子の一部】の「ア」「イ」に入る内容の組み合わせとして適切なものを選択する	相手や場面に応じて適切に敬語を使う			5・6(1)イ(ク)					○	○			52.5	56.0	2.7	2.7
8ア	文の中で漢字を使う(せし造)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う			5・6(1)ウ(フ)					○	○			73.9	73.4	4.9	5.2
8イ	文の中で漢字を使う(せつ備)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う			5・6(1)ウ(フ)					○	○			83.3	82.2	6.0	6.3
8ウ	文の中で漢字を使う(しょう毒)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う			5・6(1)ウ(フ)					○	○			82.4	82.2	6.3	6.6
8エ	文の中で漢字を使う(かん理)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う			5・6(1)ウ(フ)					○	○			65.9	65.0	7.1	7.4
8オ	文の中で漢字を使う(せつ極的)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う			5・6(1)ウ(フ)					○	○			50.1	51.4	7.5	7.7

※塗りつぶしは、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率。太枠は5%以上の無解答率。

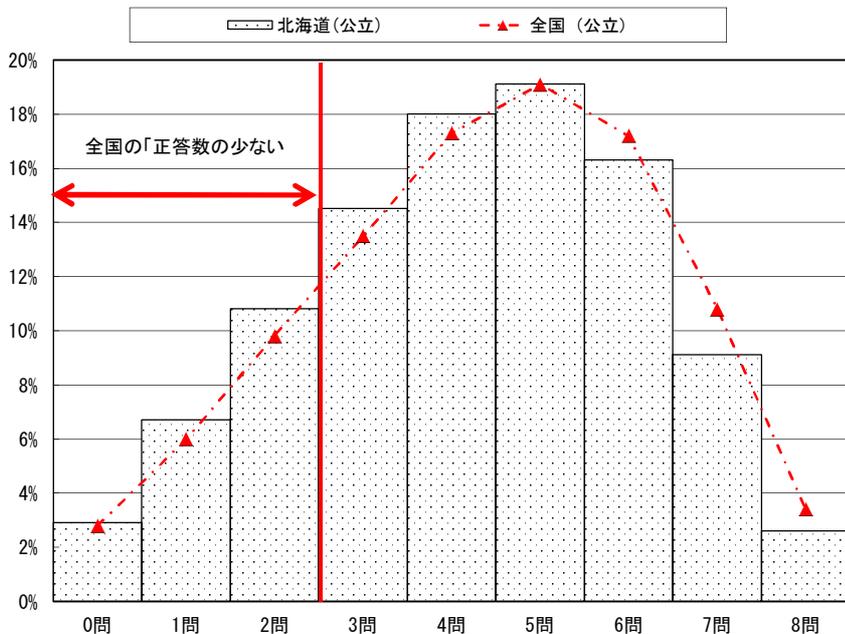
	H28	H29	H30
平均正答率が全国以上の問題数	3/15問	4/15問	4/12問
無解答率が全国以下の問題数	7/15問	13/15問	12/12問
無解答率が5%以上の問題数	7/15問	3/15問	4/12問

■ 小学校国語B

【概要】

- 平均正答率は53〔52.7〕%
- 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、-1.2ポイント（H29）から -2.0ポイントに広がっ

	児童数(人)	平均正答数(問)	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北海道(公立)	39,599	4.2 / 8	53〔52.7〕	4.0	1.9
全国(公立)	1,029,799	4.4 / 8	55〔54.7〕	5.0	1.9



※ 全国の「正答数の少ない層」…全国の「第1四分位」未満の正答数の範囲

正答数(正答率)	北海道	全国
8問(100.0%)	2.6	3.4
7問(87.5%)	9.1	10.8
6問(75.0%)	16.3	17.2
5問(62.5%)	19.1	19.1
4問(50.0%)	18.0	17.3
3問(37.5%)	14.5	13.5
2問(25.0%)	10.8	9.8
1問(12.5%)	6.7	6.0
0問(0.0%)	2.9	2.8

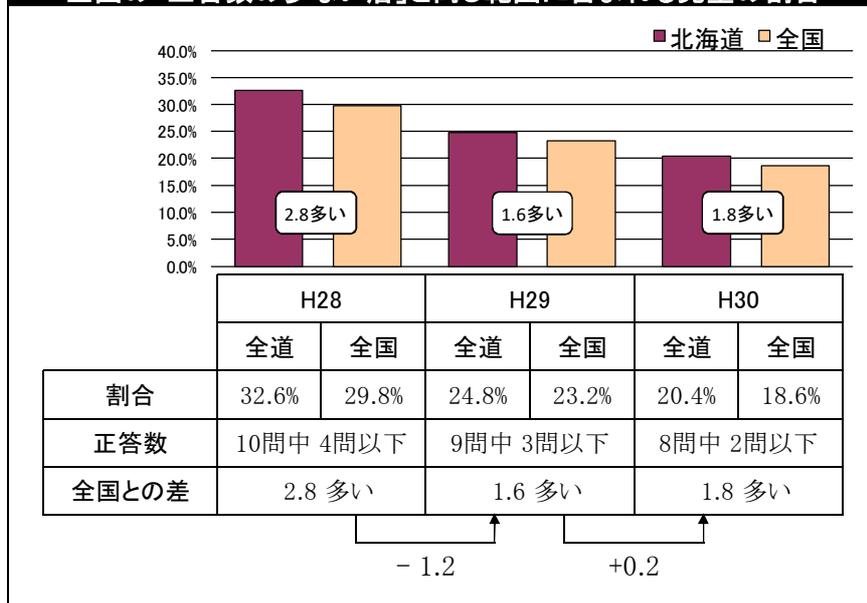
(割合は小数第2位以下を四捨五入)

四分位		
	北海道	全国
第3四分位	△6.0問	6.0問
第2四分位	◇4.0問	5.0問
第1四分位	▽3.0問	3.0問

※ 児童生徒を正答数の大きい順に整列し、人数の割合により4つの層に分ける際の分け目を、大きいものから順に「第3四分位」「第2四分位」「第1四分位」として示した。

■ は、全国の「第1四分位」未満の正答数の児童生徒の割合。

全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる児童の割合

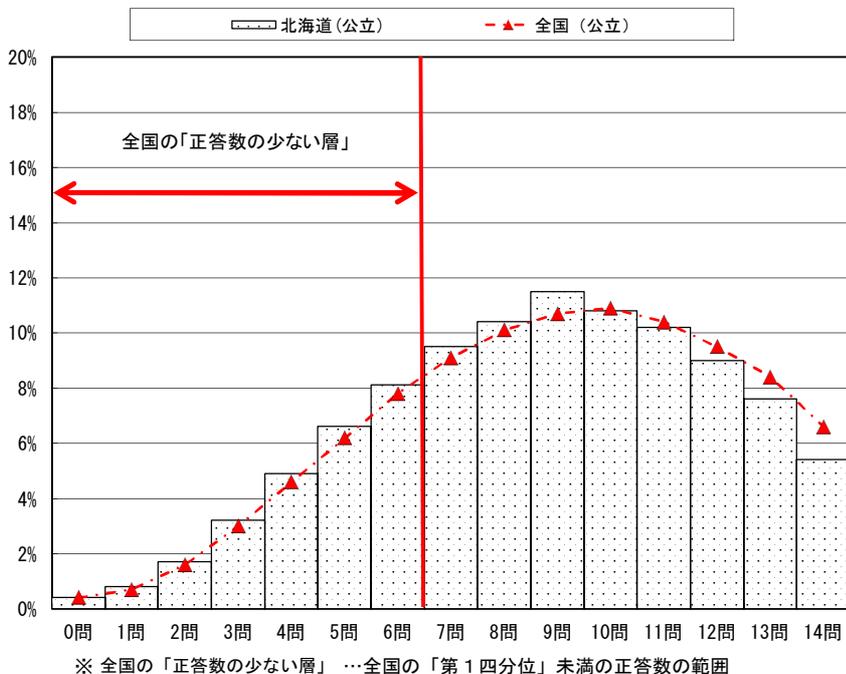


■ 小学校算数A

【概要】

- 平均正答率は62〔62.2〕%
- 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、-1.3ポイントでH29と同じ。

	児童数(人)	平均正答数(問)	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北海道(公立)	39,610	8.7 / 14	62〔62.2〕	9.0	3.2
全国(公立)	1,030,013	8.9 / 14	64〔63.5〕	9.0	3.2



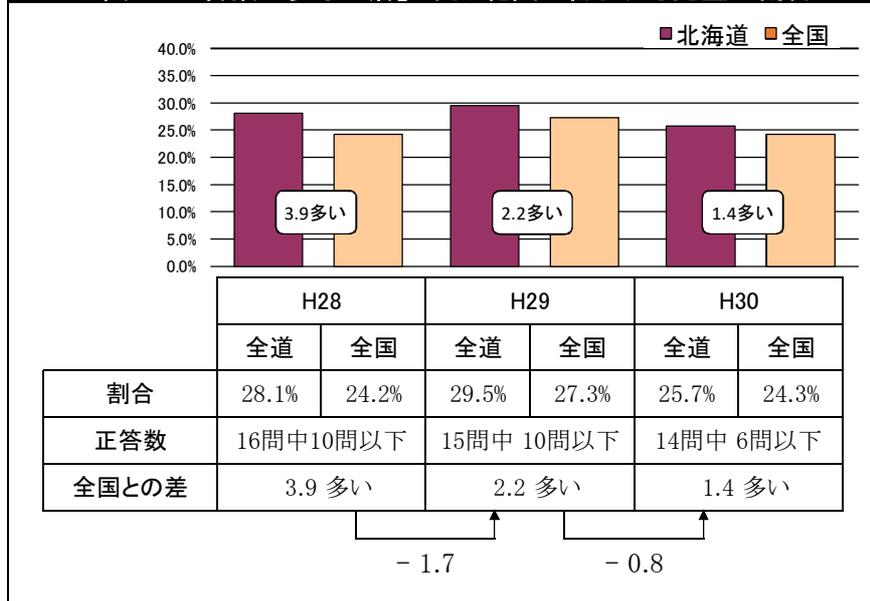
正答数 (児童の割合(%))		
正答数(正答率)	北海道	全国
14問(100.0%)	5.4	6.6
13問(92.9%)	7.6	8.4
12問(85.7%)	9.0	9.5
△ 11問(78.6%)	10.2	10.4
◇ 10問(71.4%)	10.8	10.9
◇ 9問(64.3%)	11.5	10.7
◇ 8問(57.1%)	10.4	10.1
▽ 7問(50.0%)	9.5	9.1
▽ 6問(42.9%)	8.1	7.8
5問(35.7%)	6.6	6.2
4問(28.6%)	4.9	4.6
3問(21.4%)	3.2	3.0
2問(14.3%)	1.7	1.6
1問(7.1%)	0.8	0.7
0問(0.0%)	0.4	0.4

(割合は小数第2位以下を四捨五入)

四分位		
	北海道	全国
第3四分位	△11.0問	11.0問
第2四分位	◇9.0問	9.0問
第1四分位	▽6.0問	7.0問

※ 児童生徒を正答数の大きい順に整列し、人数の割合により4つの層に分ける際の分け目を、大きいものから順に「第3四分位」「第2四分位」「第1四分位」として示した。
 ■ は、全国の「第1四分位」未満の正答数の児童生徒の割合。

全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる児童の割合

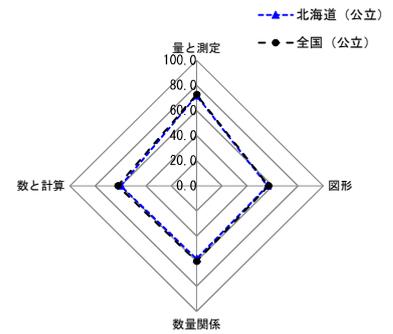


問題別調査結果 [小学校算数A：主として知識]

集計結果

対象学校数	北海道（公立）	全国（公立）	対象児童数	北海道（公立）	全国（公立）
	1,012	19,384		39,610	1,030,013
分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			北海道（公立）	全国（公立）	
全体			14	62 [62.2]	64 [63.5]
学習指導要領の領域	数と計算	5	60.0	62.3	
	量と測定	4	71.7	72.7	
	図形	3	56.1	56.9	
	数量関係	5	58.2	60.1	
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0			
	数学的な考え方	0			
	数量や図形についての技能	5	61.9	63.0	
	数量や図形についての知識・理解	9	62.3	63.8	
問題形式	選択式	10	60.9	61.8	
	短答式	4	65.3	67.8	
	記述式	0			

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



問題別集計結果

※一つの問題が複数の区分に該当する場合は、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		
			数と計算	量と測定	図形	数量関係	算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解	選択式	短答式	記述式	北海道（公立）	全国（公立）	北海道（公立）	全国（公立）	
1 (1)	針金0.2mの重さと針金0.1mの重さを書く	除法で表すことができる二つの数量の関係を理解している	4A(3)イ 5A(3)												60.7	62.9	1.8	1.7
1 (2)	針金0.4mと、0.4mの重さの60gと、1mの重さが、それぞれ数直線上のどこに当てはまるかを選ぶ	1に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し、数直線上に表すことができる	5A(3)ア												68.6	66.7	2.3	2.4
1 (3)	針金1mの重さを求める式を選ぶ	1に当たる大きさを求める問題では、除数が小数である場合でも除法を用いることを理解している	5A(3)ア												61.3	65.3	2.2	2.2
2	答えが12÷0.8の式で求められる問題を選ぶ	小数の除法の意味について理解している	3A(6)ア 4A(3)イ 5A(3)ア												34.5	39.9	0.8	1.0
3	3桁の整数どうしの大きさを比べ、十の位に入る適切な数字を書く	十進位取り記数法で表された数の大小について理解している	2A(1)イ												74.9	76.4	1.3	1.3
4 (1)	面積がそろっている㊶と㊷の二つのシートの混み具合について、正しいものを選ぶ	異種の二つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合の比べ方を理解している	5B(4)ア												87.1	87.8	0.6	0.6
4 (2)	㊶と㊷の二つのシートの混み具合を比べる式の意味について、正しいものを選ぶ	単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味を理解している	5B(4)ア												51.6	50.1	1.1	1.0
5 (1)	角㊸の角の大きさが、何度であるかを選ぶ	180°の角の大きさを理解している	4B(2)アイ												93.8	94.4	1.1	1.1
5 (2)	分度器の目盛りを読み、180°よりも大きい角の大きさを求める	180°や360°を基に分度器を用いて、180°よりも大きい角の大きさを求めることができる	4B(2)アイ												54.3	58.5	1.5	1.5
6	空間の中にあるものの位置を正しく書く	示された表現方法を基に、空間の中にあるものの位置を表現することができる		4C(3)											71.2	73.5	3.6	3.3
7 (1)	円周率を求める式として正しいものを選ぶ	円周率の意味について理解している		3C(1)ウ 5C(1)エ											43.2	41.6	3.2	3.2
7 (2)	円の直径の長さが2倍になったとき、円周の長さが何倍になるかを選ぶ	直径の長さと円周の長さの関係について理解している		3C(1)ウ 5C(1)エ											53.8	55.6	3.7	3.6
8	200人のうち80人が小学生のとき、小学生の人数は全体の人数の何%かを選ぶ	百分率を求めることができる		5D(3)											52.5	52.9	4.7	4.6
9	示された事柄が両方当てはまるグラフを選ぶ	折れ線グラフから変化の特徴を読み取ることができる		4D(1)ア 4D(4)イ											62.7	63.6	7.4	7.2

※塗りつぶしは、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率。太枠は5%以上の無解答率。

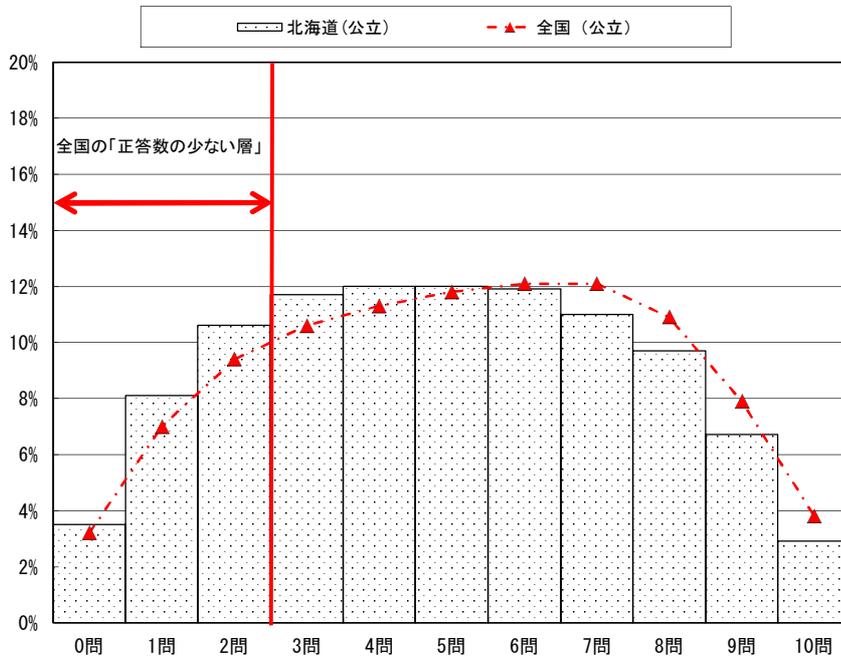
	H28	H29	H30
平均正答率が全国以上の問題数	2/16問	4/15問	3/14問
無解答率が全国以下の問題数	7/16問	9/15問	8/14問
無解答率が5%以上の問題数	1/16問	1/15問	1/14問

■ 小学校算数B

【概要】

- 平均正答率は49〔48.7〕%
- 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、-2.4ポイント（H29）から -2.8ポイントに広がった。

	児童数（人）	平均正答数（問）	平均正答率（%）	中央値	標準偏差
北海道（公立）	39,603	4.9 / 10	49〔48.7〕	5.0	2.6
全国（公立）	1,029,847	5.1 / 10	52〔51.5〕	5.0	2.7



※ 全国の「正答数の少ない層」 …… 全国の「第1四分位」未満の正答数の範囲

正答数（児童の割合（%））		
正答数（正答率）	北海道	全国
10問（100.0%）	2.9	3.8
9問（90.0%）	6.7	7.9
8問（80.0%）	9.7	10.9
△ 7問（70.0%）	11.0	12.1
◇ 6問（60.0%）	11.9	12.1
◇ 5問（50.0%）	12.0	11.8
4問（40.0%）	12.0	11.3
▽ 3問（30.0%）	11.7	10.6
2問（20.0%）	10.6	9.4
1問（10.0%）	8.1	7.0
0問（0.0%）	3.5	3.2

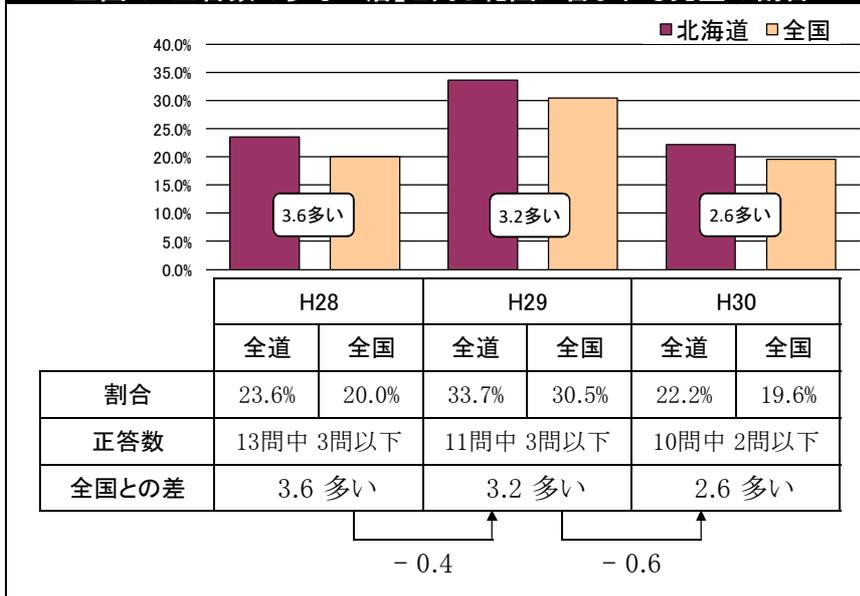
（割合は小数第2位以下を四捨五入）

四分位		
	北海道	全国
第3四分位	△7.0問	7.0問
第2四分位	◇5.0問	5.0問
第1四分位	▽3.0問	3.0問

※ 児童生徒を正答数の大きい順に整理し、人数の割合により4つの層に分ける際の分け目を、大きいものから順に「第3四分位」「第2四分位」「第1四分位」として示した。

■ は、全国の「第1四分位」未満の正答数の児童生徒の割合。

全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる児童の割合



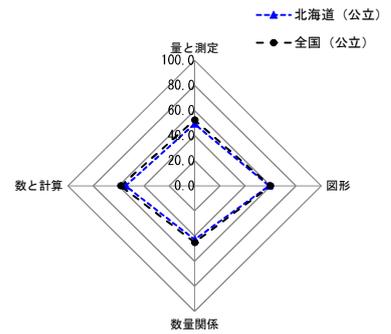
問題別調査結果 [小学校算数B：主として活用]

集計結果

対象学校数	北海道（公立）	全国（公立）	対象児童数	北海道（公立）	全国（公立）
		1,012		19,380	

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			北海道（公立）	全国（公立）	
全体			10	49 [48.7]	52 [51.5]
学習指導要領の領域	数と計算	6	54.6	58.4	
	量と測定	4	49.3	52.4	
	図形	2	58.8	59.9	
	数量関係	5	42.8	45.1	
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0			
	数学的な考え方	9	46.0	49.2	
	数量や図形についての技能	0			
	数量や図形についての知識・理解	1	72.6	71.7	
問題形式	選択式	3	52.5	54.0	
	短答式	2	64.0	66.6	
	記述式	5	40.3	43.9	

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



問題別集計結果

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があります。それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合があります。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		
			数と計算	量と測定	図形	数量関係	算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解	選択式	短答式	記述式	北海道（公立）	全国（公立）	北海道（公立）	全国（公立）	
1 (1)	合同な正三角形で敷き詰められた模様の中から見いだすことができる図形として、正しいものを選ぶ	合同な正三角形で敷き詰められた模様の中に、条件に合う図形を見いだすことができる			30(1)ア 36(1)ア 46(1)イ 56(1)アイウ										72.6	71.7	0.3	0.3
1 (2)	一つの点の周りに集まった角の大きさの和が360°になっていることを、着目した図形とその角の大きさを基に書く	図形の構成要素や性質を基に、集まった角の大きさの和が360°になっていることを記述できる		4B (2)アイ	36(1)ア 46(1)イ 56(1)アイウ										45.0	48.2	16.0	14.4
2 (1)	全体で使える時間の中で、「ルールの説明」に使える時間は何かを書く	示された情報を解釈し、条件に合う時間を求めることができる	1A (2)ア	3B (3)イ	2D (1)										69.6	70.5	1.7	1.5
2 (2)	1回の玉入れゲームの時間を3分に最も近い時間にするための玉を投げる時間を、表に整理して求める	示された考え方を解釈し、ほかの数値の場合を表に整理し、条件に合う時間を判断することができる	3A (2)イ 3A (3)イ	3B (3)アイ	3D (3)										44.2	47.9	1.9	1.6
3 (1)	メモ1とメモ2は、それぞれ、グラフについてどのようなことに着目して書かれているのかを書く	メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述できる			3D (3)ア										18.3	20.7	20.1	18.0
3 (2)	一つの事柄について表した棒グラフと帯グラフから読み取ることができることをまとめた文章に当てはまるものを選ぶ	棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを、適切に判断することができる			3D (3)ア 3D (4)										23.2	23.9	1.3	1.1
4 (1)	「32、40」の二つの数の和が9の段の数になるわけを、分配法則を用いた式に表す	示された考え方を解釈し、条件を変更して数量の関係を考察し、分配法則の式に表現することができる	2A(1)エ 2A(3)ウ 3A(1)ア		4D (2)ア 4D (3)ア										58.5	62.7	7.1	6.2
4 (2)	横に並んでいる七つの数について、示された表現方法を適用して書く	示された考え方を解釈し、条件を変更して考察した数量の関係を、表現方法を適用して記述できる	2A(2)ア 2A(3)ア 4A(3)イ												55.5	59.5	13.3	11.3
5 (1)	横の長さが7mの黒板に輪かざりをつけるために必要な折り紙の枚数が、100枚あれば足りるわけを書く	折り紙の枚数が100枚あれば足りる理由を、示された数量を関連付け根拠を明確にして記述できる	2A(3)ア 2A(3)イ 3A(4)ア 4A(3)イ	2B (1)ア											38.3	43.2	20.0	16.6
5 (2)	4色を順に繰り返してつなげ、輪かざり1本を作ったときの、30個目の折り紙の輪の色を選ぶ	折り紙の輪の色の規則性を解釈し、それを基に条件に合う色を判断することができる	1A(1)イ 2A(1)ア 3A(4)ア 4A(3)イ 5A(1)イ												61.8	66.5	10.8	8.3

※塗りつぶしは、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率。太枠は5%以上の無解答率。

	H28	H29	H30
平均正答率が全国以上の問題数	1/13問	0/11問	1/10問
無解答率が全国以下の問題数	2/13問	1/11問	1/10問
無解答率が5%以上の問題数	5/13問	8/11問	6/10問

■ 小学校理科

【概要】

- 平均正答率は59〔58.8〕%
- 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、-1.5ポイントでH27と同じ。

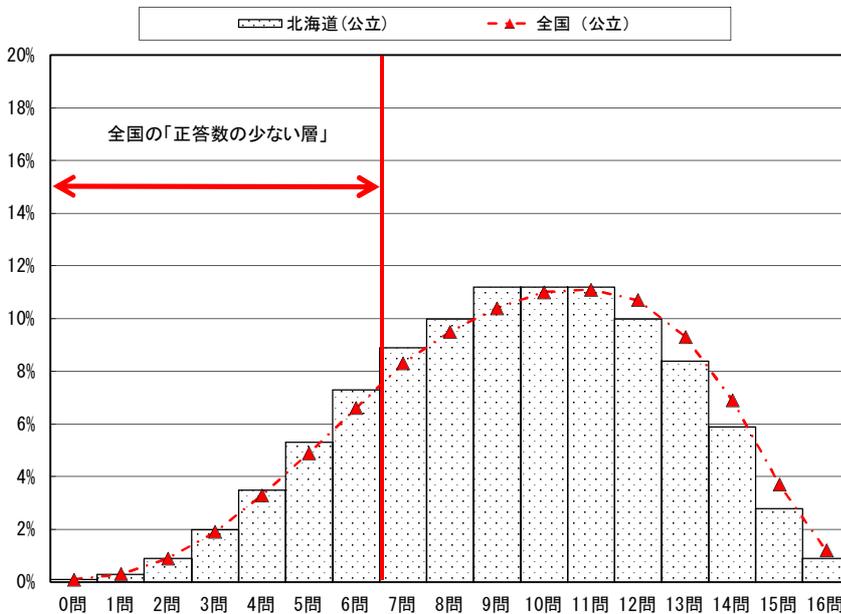
	児童数(人)	平均正答数(問)	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北海道(公立)	39,617	9.4 / 16	59〔58.8〕	10.0	3.1
全国(公立)	1,029,828	9.6 / 16	60〔60.3〕	10.0	3.2

正答数 (児童の割合(%))		
正答数(正答率)	北海道	全国
16問(100.0%)	0.9	1.2
15問(93.8%)	2.8	3.7
14問(87.5%)	5.9	6.9
13問(81.3%)	8.4	9.3
12問(75.0%)	10.0	10.7
11問(68.8%)	11.2	11.1
10問(62.5%)	11.2	11.0
9問(56.3%)	11.2	10.4
8問(50.0%)	10.0	9.5
7問(43.8%)	8.9	8.3
6問(37.5%)	7.3	6.6
5問(31.3%)	5.3	4.9
4問(25.0%)	3.5	3.3
3問(18.8%)	2.0	1.9
2問(12.5%)	0.9	0.9
1問(6.3%)	0.3	0.3
0問(0.0%)	0.1	0.1

(割合は小数第2位以下を四捨五入)

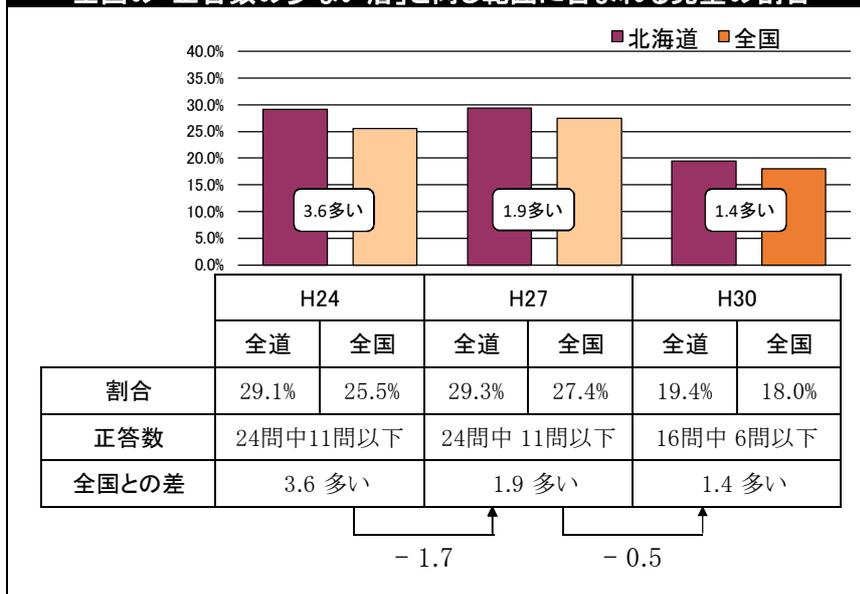
四分位		
	北海道	全国
第3四分位	△12.0問	12.0問
第2四分位	◇10.0問	10.0問
第1四分位	▽7.0問	7.0問

※ 児童生徒を正答数の大きい順に整列し、人数の割合により4つの層に分ける際の分け目を、大きいものから順に「第3四分位」「第2四分位」「第1四分位」として示した。
 は、全国の「第1四分位」未満の正答数の児童生徒の割合。



※ 全国の「正答数の少ない層」 … 全国の「第1四分位」未満の正答数の範囲

全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる児童の割合

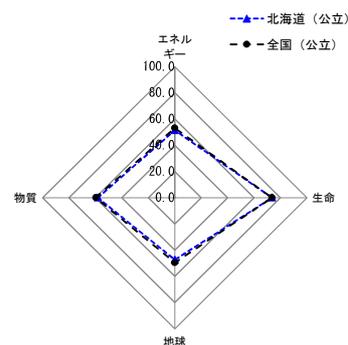


問題別調査結果 [小学校理科]

集計結果

対象学校数	北海道(公立)	全国(公立)	対象児童数	北海道(公立)	全国(公立)
	1,012	19,278		39,617	1,029,828
分類	区分		対象問題数(問)	平均正答率(%)	
	全体			北海道(公立)	全国(公立)
学習指導要領の区分等	主として「知識」に関する問題		3	78.0	78.0
	主として「活用」に関する問題		13	54.0	56.2
	A区分	物質	4	58.2	59.8
		エネルギー	4	51.4	53.1
	B区分	生命	4	73.5	73.6
地球		6	47.3	49.5	
自然現象への関心・意欲・態度		1	81.9	82.1	
評価の観点	科学的な思考・表現		12	52.0	54.1
	観察・実験の技能		1	71.7	71.1
	自然現象についての知識・理解		2	81.0	81.5
	選択式		13	61.9	63.8
問題形式	短答式		1	82.5	79.4
	記述式		2	26.2	28.0

<学習指導要領の区分等の平均正答率の状況>



問題別集計結果

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	枠組み 主として「知識」に関する問題	学習指導要領の区分等 主として「活用」に関する問題	評価の観点				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		
					自然現象への関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然現象についての知識・理解	選択式	短答式	記述式	北海道(公立)	全国(公立)	北海道(公立)	全国(公立)	
																A区分 物質
1(1)	野鳥のひなの様子を観察するための適切な方法を選ぶ	安全に留意し、生物を愛護する態度をもって、野鳥のひなを観察できる方法を構想できる	○										81.9	82.1	0.0	0.0
1(2)	鳥の翼と人の腕のつくりについてのまとめから、どのような視点を基にまとめた内容なのかを選ぶ	調べた結果について考察する際に、問題に対応した視点で分析できる	○										74.3	76.2	0.1	0.1
1(3)	腕を曲げることのできる骨と骨のつなぎ目を表す言葉を書く	骨と骨のつなぎ目について、科学的な言葉や概念を理解している	○						○	○			82.5	79.4	2.9	3.8
1(4)	人の腕が曲がる仕組みについて、示された模型を使って説明できる内容を選ぶ	人の腕が曲がる仕組みを模型に適用できる	○						○				55.1	56.6	0.3	0.4
2(1)	流されてきた土や石を積もらせる水の働きを表す言葉を選ぶ	堆積作用について、科学的な言葉や概念を理解している	○						○	○			79.5	83.6	0.1	0.1
2(2)	流れる水の働きによる土地の侵食について、自分の考えと異なる他者の予想を基に、斜面に水を流したときの立てた棒の様子を選ぶ	土地の侵食について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想できる	○						○				53.9	55.4	0.2	0.3
2(3)	一度に流す水の量と棒の様子との関係から、大雨が降って流れる水の量が増えたときの地面の削られ方を選び、選んだだけを書く	より妥当な考えをつくりだすために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述できる	○						○		○		17.4	20.1	0.9	1.0
2(4)	上流側の雲の様子や雨の降っている所と下流側の川の水位の変化から、上流側の天気と下流側の水位の関係について言えることを選ぶ	より妥当な考えをつくりだすために、複数の情報を関係付けながら、分析して考察できる	○						○				56.9	59.8	0.3	0.3
3(1)	風が吹く方向を変えるためにモーターの回転が逆になる回路を選ぶ	乾電池のつなぎ方を変えると電流の向きが変わることを実際の回路に適用できる	○						○				62.2	63.5	0.3	0.3
3(2)	回路を流れる電流の流れ方について、自分の考えと異なる他者の予想を基に、検流計の針の向きと目盛りを選ぶ	電流の流れ方について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想できる	○						○				45.1	47.7	0.5	0.5
3(3)	回路を流れる電流の向きと大きさについて、実験結果から考え直した内容を選ぶ	実験結果から電流の流れ方について、より妥当な考えに改善できる	○						○				57.1	59.4	0.6	0.6
3(4)	目的の時間帯だけモーターを回すため、太陽の1日の位置の変化に合わせた箱の中の光電池の適切な位置や向きを選ぶ	太陽の1日の位置の変化と光電池に生じる電流の変化の関係を目的に合ったものづくりに適用できる	○						○				41.1	41.9	0.6	0.6
4(1)	ろ過後の溶液に砂が混じっている状況に着目しながら、誤った操作に気付き、適切に操作する方法を選ぶ	ろ過の適切な操作方法を身に付けている	○						○				71.7	71.1	0.5	0.5
4(2)	海水と水道水を区別するために、2つの異なる実験方法から得られた結果を基に判断した内容を選ぶ	より妥当な考えをつくりだすために、2つの異なる方法の実験結果を分析して考察できる	○						○				88.7	89.4	0.6	0.6
4(3)	食塩を水に溶かしたときの全体の重さを選ぶ	物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことを食塩を溶かして体積が増えた食塩水に適用できる	○						○				37.6	42.7	1.2	1.3
4(4)	食塩水を熱したときの食塩の蒸発について、実験を通して導きだす結論を書く	実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述できる	○						○		○		35.0	35.9	8.7	8.9

※塗りつぶしは、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率。太枠は5%以上の無解答率。

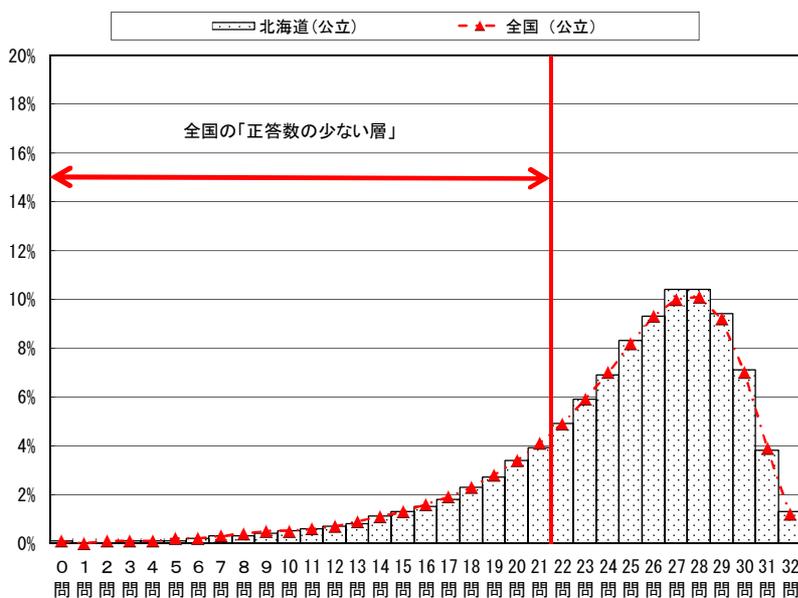
	H24	H27	H30
平均正答率が全国以上の問題数	3/24問	4/24問	2/16問
無解答率が全国以下の問題数	7/24問	7/24問	16/16問
無解答率が5%以上の問題数	6/24問	4/24問	1/16問

■ 中学校国語 A

【概要】

- 平均正答率は77〔76.6〕%
- 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、-0.7ポイント（H29）から +0.5ポイントになり、全国を上回った。
- 〔参考〕平成27年度小学校国語Aの全国の平均正答率との差は、-1.9ポイント。

	生徒数（人）	平均正答数（問）	平均正答率（%）	中央値	標準偏差
北海道（公立）	39,656	24.5 / 32	77〔76.6〕	26.0	5.1
全国（公立）	966,764	24.3 / 32	76〔76.1〕	26.0	5.3



※ 全国の「正答数の少ない層」 …… 全国の「第1四分位」未満の正答数の範囲

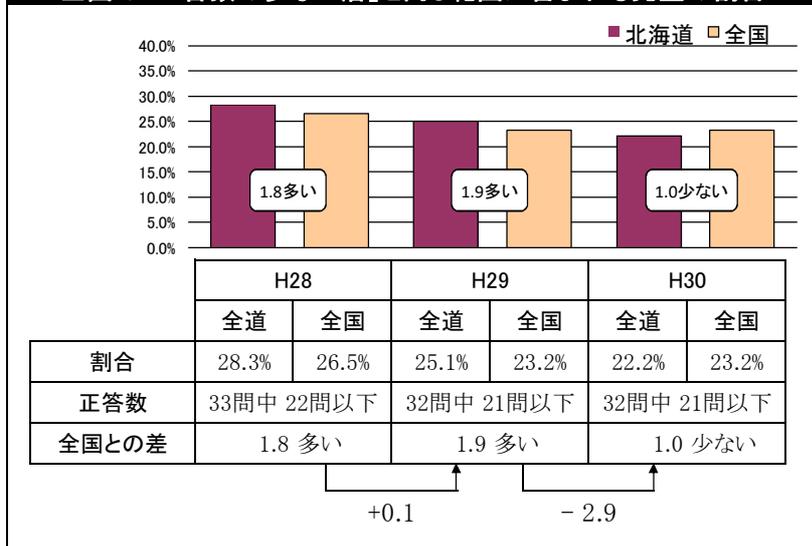
正答数（生徒の割合（%））		
正答数（正答率）	北海道	全国
32問（100.0%）	1.3	1.2
31問（96.9%）	3.8	3.9
30問（93.8%）	7.1	7.0
29問（90.6%）	9.4	9.2
28問（87.5%）	10.4	10.1
27問（84.4%）	10.4	10.0
26問（81.3%）	9.3	9.3
25問（78.1%）	8.3	8.2
24問（75.0%）	6.9	7.0
23問（71.9%）	5.9	5.9
22問（68.8%）	4.9	4.9
21問（65.6%）	3.9	4.1
20問（62.5%）	3.4	3.4
19問（59.4%）	2.7	2.8
18問（56.3%）	2.3	2.3
17問（53.1%）	1.8	1.9
16問（50.0%）	1.5	1.6
15問（46.9%）	1.3	1.3
14問（43.8%）	1.1	1.1
13問（40.6%）	0.8	0.9
12問（37.5%）	0.7	0.7
11問（34.4%）	0.6	0.6
10問（31.3%）	0.5	0.5
9問（28.1%）	0.4	0.5
8問（25.0%）	0.3	0.4
7問（21.9%）	0.3	0.3
6問（18.8%）	0.2	0.2
5問（15.6%）	0.1	0.2
4問（12.5%）	0.1	0.1
3問（9.4%）	0.1	0.1
2問（6.3%）	0.0	0.1
1問（3.1%）	0.0	0.0
0問（0.0%）	0.1	0.1

（割合は小数第2位以下を四捨五入）

	四分位	
	北海道	全国
第3四分位	△28.0問	28.0問
第2四分位	◇26.0問	26.0問
第1四分位	▽22.0問	22.0問

※ 児童生徒を正答数の大きい順に整列し、人数の割合により4つの層に分ける際の分け目を、大きいものから順に「第3四分位」「第2四分位」「第1四分位」として示した。
 は、全国の「第1四分位」未満の正答数の児童生徒の割合。

全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる児童の割合



〔参考〕
 平成27年度小学校国語A
 全道 全国
 33.1% 29.4%
 全国との差 3.7多い

問題別調査結果 [中学校国語A：主として知識]

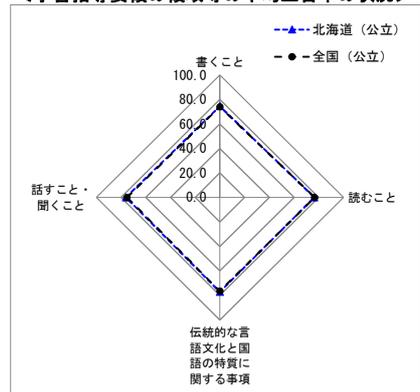
集計結果

対象学校数	北海道（公立）	全国（公立）	対象生徒数	北海道（公立）	全国（公立）
	589	9,595		39,656	966,764

分類	区分	対象問題数（問）	平均正答率（%）	
			北海道（公立）	全国（公立）
	全体	32	77 [76.6]	76 [76.1]
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	76.1	75.2
	書くこと	4	74.4	73.9
	読むこと	4	76.4	76.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	21	77.1	76.5
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0		
	話す・聞く能力	3	76.1	75.2
	書く能力	4	74.4	73.9
	読む能力	4	76.4	76.7
	言語についての知識・理解・技能	21	77.1	76.5
問題形式	選択式	21	77.1	76.8
	短答式	11	75.7	74.7
	記述式	0		

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

<学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式			正答率（%）		無解答率（%）		
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	北海道（公立）	全国（公立）	北海道（公立）	全国（公立）
1ー	スピーチの感想に対して先生が述べた言葉として適切なものを選択する	話の論理的な構成や展開などに注意して聞く	2 エ												86.9	87.4	0.1	0.1
2ー	図書だよりの下書きの構成を説明したものとして適切なものを選択する	書こうとする事柄のまとまりや順序を考えて文章を構成する		1 イ											89.5	89.5	0.2	0.3
2二	二つの意見の内容を一文で書き加える	伝えたい事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように書く		2 ウ											65.8	64.0	3.1	3.3
3ー	「それは掛け橋のない、二秒の間のできごとである」を説明したものとして適切なものを選択する	文脈の中における語句の意味を理解する			1 ア										88.2	88.2	0.1	0.2
3二	父と保吉の言動についての説明として適切なものを選択する	場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する			1 ウ										82.8	82.8	0.2	0.2
4ー	意見文の下書きに一文を書き加える意図として適切なものを選択する	書いた文章を読み返し、伝えたい内容が十分に表されているかを検討する		1 エ											63.1	62.8	0.2	0.2
4二	段落の内容を入れ替えて書き直す理由として適切なものを選択する	段落相互の関係に注意し、読みやすく分かりやすい文章にする		2 エ											79.4	79.4	0.3	0.3
5ー	本文の第六段落の説明として適切なものを選択する	段落が文章全体の中で果たす役割を捉え、内容の理解に役立てる			2 イ										76.1	76.3	0.5	0.5
5二	新聞紙の製造工程の一部を言い表したものとして適切なものを選択する	文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える			1 イ										58.6	59.5	0.3	0.4
6ー	話合いの際のメモのとり方の説明として適切なものを選択する	話合いの話題や方向を捉える	1 オ												73.5	72.4	0.4	0.5
6二	話合いの中で確認しなければならないことについての司会としての発言を書く	話合いの話題や方向を捉えて的確に話す	1 オ												68.1	65.8	13.7	13.3
7ー	場面に当てはまる語句の意味として適切なものを選択する（ハナイカダ）	語句の辞書的な意味を踏まえて文脈上の意味を捉える				1(1) イ(0)									86.7	87.3	0.5	0.6
7二	「それでは」の働きとして適切なものを選択する	接続詞の働きについて理解する				1(1) イ(0)									88.1	88.4	0.7	0.9
8ー1	漢字を書く（紙をひもでたばねる）	文脈に即して漢字を正しく書く				2(1) ウ(0)									82.4	79.0	11.2	13.2
8ー2	漢字を書く（舞台のマウが上がる）					2(1) ウ(0)									74.1	72.9	14.0	14.4
8ー3	漢字を書く（先制点をユルす）					2(1) ウ(0)									71.7	71.4	18.8	19.5

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	北海道(公立)	全国(公立)	北海道(公立)	全国(公立)
8二1	漢字を読む(模型を作る)	文脈に即して漢字を正しく書く				2(1) ウ(7)						○	○		96.0	95.7	1.6	1.9
8二2	漢字を読む(池の水が凍る)					2(1) ウ(7)						○	○		98.1	97.8	0.5	0.9
8二3	漢字を読む(技を磨く)					2(1) ウ(7)						○	○		98.8	98.1	0.6	1.1
8三ア	適切な語句を選択する(立場の異なる両者の主張は終始一直して変わらず、最後まで結論が出なかった)	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う				1(1) イ(9)						○	○		81.1	77.7	0.7	0.8
8三イ	適切な語句を選択する(魚の中には群れを作って泳ぐ習性をもつものがある)					2(1) イ(9)						○	○		93.6	91.0	0.4	0.5
8三ウ	適切な敬語を選択する(先生が私たちに大切なことをおっしゃった)					2(1) イ(9)						○	○		85.7	88.0	0.6	0.6
8三エ	適切な語句を選択する(彼はせきを切ったように話し始めた)					1(1) イ(9)						○	○		28.1	29.2	0.8	0.9
8三オ	適切な語句を選択する(意見の折り合いをつける)					1(1) イ(9)						○	○		62.3	61.8	0.7	0.9
8三カ	適切な語句を選択する(わたしが健康になったのは、 <u>ひとえ</u> に母のおかげです)					1(1) イ(9)						○	○		68.1	65.4	0.9	1.0
8三キ	適切な語句を選択する(姉はみんなと一緒に運動することが好きだ。二五、妹は一人で本を読むことが好きだ)					1(1) イ(9)						○	○		95.7	95.2	0.9	1.0
8四1	「心を打たれる」の意味として適切なものを選択する		慣用語の意味を理解する				3・4 (1)ア (4)						○	○		95.1	94.7	0.7
8四2	「心を打たれた。」を文末に用いた一文を、主語を明らかにし、「誰(何)」の「どのようなこと」に「心を打たれた」のかが分かるように書く	目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書くように書く				2(1) イ(9)						○	○		22.4	22.3	6.8	6.5
8五	作品への助言として適切なものを選択する	行書の基礎的な書き方を理解して書く				1(2) イ						○	○		54.1	54.4	1.2	1.2
8六1	『韓非子』の中の語句の訳を抜き出す(いはく)	古典の文章と現代語訳とを対応させて内容を捉える				2(1) ア(9)						○	○		90.5	91.1	5.3	5.1
8六2	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す(とほさざるなし)	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む				1(1) ア(7)						○	○		64.4	63.0	7.8	7.4
8六3	『韓非子』の中で矛盾していることの説明として適切なものを選択する	古典に表れたものの見方や考え方を理解する				2(1) ア(9)						○	○		82.3	81.3	2.3	2.2

※塗りつぶしは、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率。太枠は5%以上の無解答率。

	H28	H29	H30
平均正答率が全国以上の問題数	9/33問	13/32問	23/32問
無解答率が全国以下の問題数	24/33問	28/32問	27/32問
無解答率が5%以上の問題数	6/33問	5/32問	7/32問

■ 中学校国語B

【概要】

- 平均正答率は61〔61.2〕%
- 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、-0.5ポイント（H29）から 0.0ポイントに縮まり、全国と同じ。

〔参考〕平成27年度小学校国語Bの全国の平均正答率との差は、-2.4ポイント。

	生徒数(人)	平均正答数(問)	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北海道(公立)	39,654	5.5 / 9	61〔61.2〕	6.0	2.0
全国(公立)	966,786	5.5 / 9	61〔61.2〕	6.0	2.0

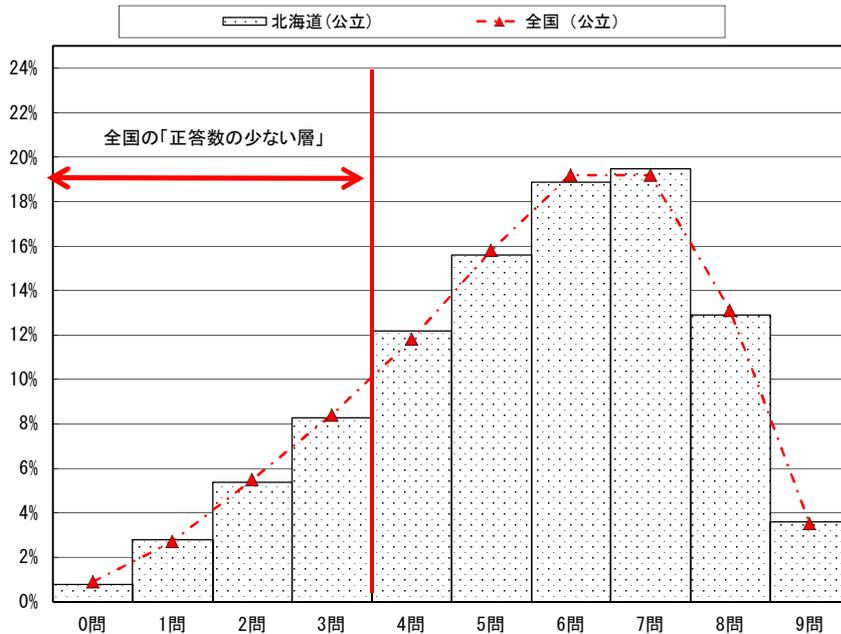
正答数 (生徒の割合(%))		
正答数(正答率)	北海道	全国
9問(100.0%)	3.6	3.5
8問(88.9%)	12.9	13.1
7問(77.8%)	19.5	19.2
6問(66.7%)	18.9	19.2
5問(55.6%)	15.6	15.8
4問(44.4%)	12.2	11.8
3問(33.3%)	8.3	8.4
2問(22.2%)	5.4	5.5
1問(11.1%)	2.8	2.7
0問(0.0%)	0.8	0.9

(割合は小数第2位以下を四捨五入)

四分位		
	北海道	全国
第3四分位	△7.0問	7.0問
第2四分位	◇6.0問	6.0問
第1四分位	▽4.0問	4.0問

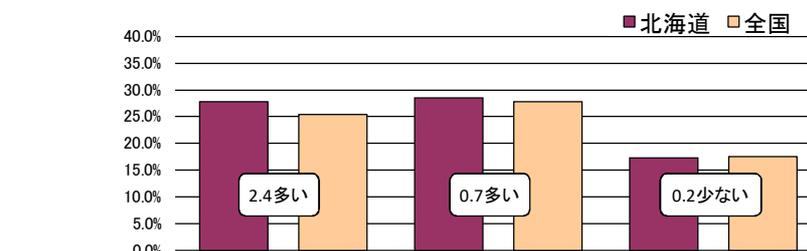
※ 児童生徒を正答数の大きい順に整列し、人数の割合により4つの層に分ける際の分け目を、大きいものから順に「第3四分位」「第2四分位」「第1四分位」として示した。

■ は、全国の「第1四分位」未満の正答数の児童生徒の割合。



※ 全国の「正答数の少ない層」…全国の「第1四分位」未満の正答数の範囲

全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる児童の割合



	H28		H29		H30	
	全道	全国	全道	全国	全道	全国
割合	27.8%	25.4%	28.5%	27.8%	17.3%	17.5%
正答数	9問中 4問以下		9問中 5問以下		9問中 3問以下	
全国との差	2.4 多い		0.7 多い		0.2 少ない	

- 1.7 - 0.9

〔参考〕

平成27年度小学校国語B

全道 全国

29.6% 26.5%

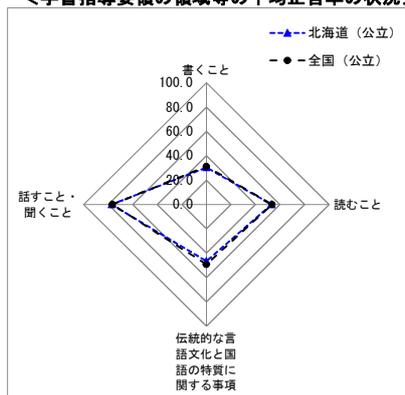
全国との差 3.1多い

問題別調査結果 [中学校国語B：主として活用]

集計結果

対象学校数	北海道（公立）	全国（公立）	対象生徒数	北海道（公立）	全国（公立）
	589	9,594		39,654	966,786
分類	区分	対象問題数（問）	平均正答率（%）		
			北海道（公立）	全国（公立）	
全体		9	61.1 [61.2]	61.1 [61.2]	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	77.3	76.6	
	書くこと	2	30.4	31.3	
	読むこと	6	53.1	53.5	
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	1	46.6	49.2	
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	49.5	50.3	
	話す・聞く能力	3	77.3	76.6	
	書く能力	2	30.4	31.3	
	読む能力	6	53.1	53.5	
	言語についての知識・理解・技能	1	46.6	49.2	
問題形式	選択式	6	67.1	66.7	
	短答式	0			
	記述式	3	49.5	50.3	

<学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>



問題別集計結果

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があります。それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合があります。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式			正答率（%）		無解答率（%）		
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	北海道（公立）	全国（公立）	北海道（公立）	全国（公立）
1一	グラフから分かることについて文章中で説明しているものとして適切なものを選択する	文章とグラフとの関係を考えながら内容を捉える			1イ										44.4	45.9	0.1	0.2
1二	複数の辞書を引用して「天地無用」の意味を示す効果として適切なものを選択する	文章の構成や展開について自分の考えをもつ			1エ										65.3	64.3	0.2	0.2
1三	「天地無用」という言葉を読んだ意味で解釈してしまう人がいる理由を書く	目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く		2ウ	1イ										14.2	13.3	8.1	7.0
2一	二人の質問の意図として適切なものを選択する	質問の意図を捉える	1エ												87.6	86.8	0.1	0.2
2二	二人に続いてする質問を書く	話の展開に注意して聞き、必要に応じて質問する	1エ												87.6	88.3	6.9	5.9
2三	ロボットに期待することを述べて発表をまとめる際の話の進め方として適切なものを選択する	全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話す			1イ										56.9	54.6	0.4	0.4
3一	登場人物についての説明として適切なものを選択する	場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する			1ウ										79.4	80.2	0.3	0.4
3二	文章中の表現について語った人物として適切なものを選択する	登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てる			2イ										68.8	68.2	0.3	0.4
3三	話のあらすじを学級の友達にどのように説明するかを書く	相手に的確に伝えるように、あらすじを捉えて書く	1ウ	1イ	2(1)ア(4)										46.6	49.2	15.8	12.4

※塗りつぶしは、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率。太枠は5%以上の無解答率。

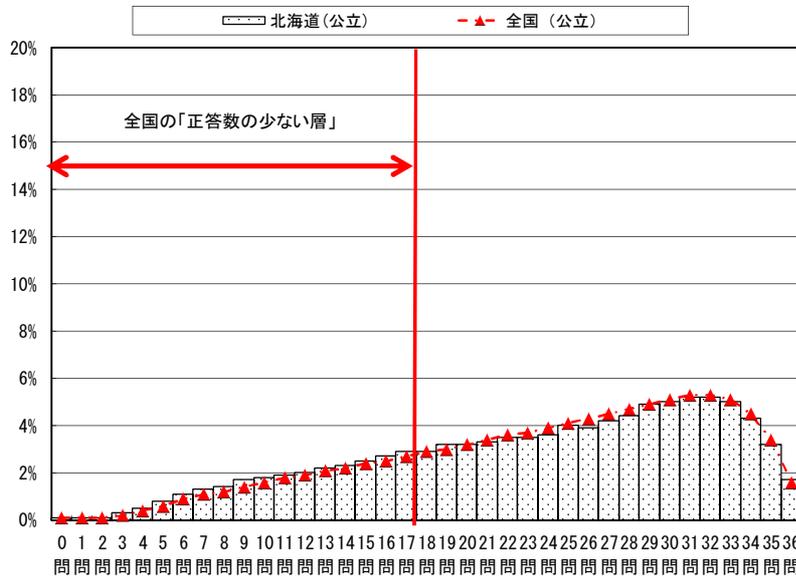
	H28	H29	H30
平均正答率が全国以上の問題数	1/9問	1/9問	5/9問
無解答率が全国以下の問題数	6/9問	6/9問	6/9問
無解答率が5%以上の問題数	3/9問	4/9問	3/9問

■ 中学校数学 A

【概要】

- 平均正答率は65〔64.9〕%
- 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、-0.9ポイント（H29）から -1.2ポイントに広がっ
- 〔参考〕平成27年度小学校算数 A の全国平均正答率との差は、-2.9ポイント。

	生徒数(人)	平均正答数(問)	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北海道(公立)	39,665	23.4 / 36	65〔64.9〕	25.0	8.3
全国(公立)	966,969	23.8 / 36	66〔66.1〕	25.0	8.1



※ 全国の「正答数の少ない層」 …… 全国の「第1四分位」未満の正答数の範囲

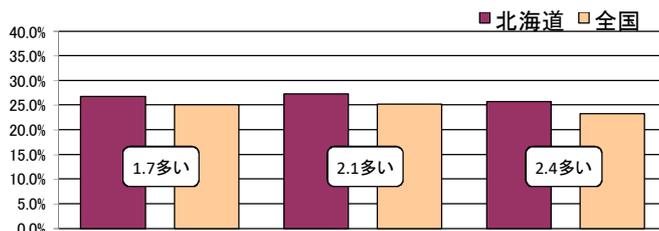
正答数 (生徒の割合(%))		
正答数(正答率)	北海道	全国
36問(100.0%)	1.7	1.6
35問(97.2%)	3.2	3.4
34問(94.4%)	4.3	4.5
33問(91.7%)	5.0	5.1
32問(88.9%)	5.2	5.3
31問(86.1%)	5.2	5.3
△ 30問(83.3%)	5.0	5.1
29問(80.6%)	4.9	4.9
28問(77.8%)	4.4	4.7
27問(75.0%)	4.2	4.5
26問(72.2%)	3.9	4.3
◇ 25問(69.4%)	4.0	4.1
24問(66.7%)	3.6	3.9
23問(63.9%)	3.5	3.7
22問(61.1%)	3.5	3.6
21問(58.3%)	3.3	3.4
20問(55.6%)	3.2	3.2
19問(52.8%)	3.2	3.0
18問(50.0%)	2.9	2.9
▽ 17問(47.2%)	2.9	2.7
16問(44.4%)	2.7	2.5
15問(41.7%)	2.5	2.4
14問(38.9%)	2.3	2.2
13問(36.1%)	2.2	2.1
12問(33.3%)	2.0	1.9
11問(30.6%)	1.9	1.8
10問(27.8%)	1.8	1.6
9問(25.0%)	1.7	1.4
8問(22.2%)	1.4	1.2
7問(19.4%)	1.3	1.1
6問(16.7%)	1.1	0.9
5問(13.9%)	0.8	0.6
4問(11.1%)	0.5	0.4
3問(8.3%)	0.3	0.2
2問(5.6%)	0.1	0.1
1問(2.8%)	0.1	0.1
0問(0.0%)	0.1	0.1

(割合は小数第2位以下を四捨五入)

	四分位	
	北海道	全国
第3四分位	△ 30.0問	31.0問
第2四分位	◇ 25.0問	25.0問
第1四分位	▽ 17.0問	18.0問

※ 児童生徒を正答数の大きい順に整理し、人数の割合により4つの層に分ける際の分け目を、大きいものから順に「第3四分位」「第2四分位」「第1四分位」として示した。
 は、全国の「第1四分位」未満の正答数の児童生徒の割合。

全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる児童の割合



	H28		H29		H30	
	全道	全国	全道	全国	全道	全国
割合	26.8%	25.1%	27.3%	25.2%	25.7%	23.3%
正答数	36問中 16問以下		36問中 17問以下		36問中 17問以下	
全国との差	1.7 多い		2.1 多い		2.4 多い	

+0.4 +0.3

〔参考〕

平成27年度小学校算数 A

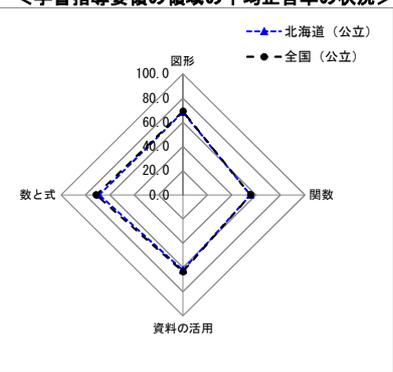
全道	全国
26.3%	21.7%
全国との差	4.6多い

問題別調査結果 [中学校数学A：主として知識]

集計結果

対象学校数	北海道(公立) 589	全国(公立) 9,591	対象生徒数	北海道(公立) 39,665	全国(公立) 966,969
分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
			北海道(公立)	全国(公立)	
全体		36	65 [64.9]	66 [66.1]	
学習指導要領の領域	数と式	12	68.7	71.1	
	図形	12	68.4	69.1	
	関数	8	55.3	55.5	
	資料の活用	4	62.3	63.5	
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0			
	数学的な見方や考え方	0			
	数学的な技能	14	69.0	70.4	
	数量や図形などについての知識・理解	22	62.3	63.3	
問題形式	選択式	18	60.8	61.5	
	短答式	18	69.1	70.7	
	記述式	0			

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



問題別集計結果

*一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
			数と式	図形	関数	資料の活用	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	選択式	短答式	記述式	北海道(公立)	全国(公立)	北海道(公立)	全国(公立)
1(1)	数直線上の点が表示負の整数の値を読み取る	数直線上に示された負の整数を読み取ることができる	1(1) ア						○		○		94.0	94.6	0.4	0.4	
1(2)	絶対値が6である数を書く	絶対値の意味を理解している	1(1) ア						○		○		60.2	69.0	11.0	7.3	
1(3)	$2 \times (-5^2)$ を計算する	指数を含む正の数と負の数の計算ができる	1(1) ウ						○		○		63.1	68.9	1.1	1.0	
1(4)	ある日の最低気温がその前日の最低気温からどれだけ高くなったかを求める式を選ぶ	ある基準に対して反対の方向や性質をもつ数量が正の数と負の数で表されることを理解している	1(1) 7.1						○	○			53.3	54.2	0.1	0.1	
2(1)	「1個 a kg の荷物3個と1個 b kg の荷物4個の全体の重さは15 kg 以上である」という数量の関係を表した不等式を書く	数量の大小関係を不等式に表すことができる	1(2) エ						○		○		39.1	41.5	9.8	8.5	
2(2)	$6a^2b \div 3a$ を計算する	単項式どうしの除法の計算ができる	2(1) ア						○		○		90.5	91.0	2.3	2.4	
2(3)	$a=3, b=-4$ のときの式 $a-2b$ の値を求める	文字式に数を代入して式の値を求めることができる	1(2) エ						○		○		75.7	78.5	5.4	4.8	
2(4)	等式 $S = \frac{1}{2}ah$ を、 a について解く	具体的な場面で関係を表す式を、等式の性質を用いて、目的に応じて変形することができる	2(1) ウ						○		○		47.2	48.2	17.5	15.3	
3(1)	一元一次方程式 $6x-3=9$ を解く際に用いられている等式の性質を選ぶ	方程式を解く場面における等式の性質の用い方について理解している	1(3) イ						○	○			63.0	64.0	0.6	0.6	
3(2)	比例式 $x:20=3:4$ を解く	簡単な比例式を解くことができる	1(3) ウ						○		○		85.7	87.8	6.0	5.0	
3(3)	連立二元一次方程式 $\begin{cases} 5x-2y=10 \\ 3x-2y=2 \end{cases}$ を解く	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	2(2) ウ						○		○		77.9	80.0	5.0	4.6	
3(4)	連立二元一次方程式をつくるために着目する数量を選び、式で表す	着目する必要がある数量を見だし、その数量に着目し、連立二元一次方程式をつくることができる	2(2) ウ						○		○		74.6	75.2	0.9	0.6	
4(1)	ひし形が線対称な図形か点対称な図形か選ぶ	ひし形は、線対称な図形であり、点対称な図形でもあることを理解している		小6 イ					○*	○			69.0	67.1	0.3	0.3	
4(2)	$\triangle ABC$ を辺 AB が辺 AC に重なるように折った線を作図するための線を選ぶ	折り目の線の作図と角の二等分線の関係を理解している	1(1) ア						○	○			56.6	54.9	0.7	0.8	
4(3)	長方形 $ABCD$ を、点 A を中心として時計回りに 90° だけ回転移動した図形をかき	回転移動した図形をかきことができる	1(1) イ						○		○		68.5	66.1	4.5	4.4	
5(1)	直方体において、与えられた面に平行な辺を書く	空間における平面と直線との位置関係(面と辺が平行であること)を理解している	1(2) ア						○		○		72.7	74.3	1.5	1.4	
5(2)	半円の直径を軸として回転させてできる立体の名称を書く	半円を、その直径を軸として回転させると、球が構成されることを理解している	1(2) イ						○		○		79.9	82.4	3.4	2.9	
5(3)	与えられた円柱の見取図から、その円柱の投影図を選ぶ	見取図、投影図から空間図形を読み取ることができる	1(2) イ						○		○		82.0	83.7	0.2	0.3	
5(4)	底面の四角形が合同で高さが等しい四角柱と四角錐の体積の関係について、正しいものを選ぶ	四角錐の体積は、それと底面が合同で高さが等しい四角柱の体積の $\frac{1}{3}$ であることを理解している	1(2) ウ						○	○			54.3	57.6	0.5	0.5	

* 評価の観点は、数量や図形についての知識・理解(小学校)に対応させている。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
			数と式	図形	関数	資料の活用	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	選択式	短答式	記述式	北海道(公立)	全国(公立)	北海道(公立)
6(1)	三角形の外角を表す式を選ぶ	三角形の外角とそれと隣り合わない2つの内角の和の関係を理解している		2(1)ア					○	○		69.1	71.4	0.4	0.4	
6(2)	五角形の1つの頂点を動かし、角の大きさを90°に変えたときの内角の和の変化として正しいものを選ぶ	多角形の内角の和の性質を理解している		2(1)イ					○	○		74.6	75.7	0.4	0.4	
7(1)	△ABCと△DEFが合同であるための条件として、正しいものを選ぶ	2つの三角形が合同であるために必要な辺や角の相等関係について理解している		2(2)ア					○	○		71.7	72.0	0.5	0.5	
7(2)	長方形で成り立ち、ひし形で成り立つことを選ぶ	長方形やひし形が平行四辺形の特別な形であることを理解している		2(2)ウ					○	○		77.8	78.2	0.5	0.5	
8	対頂角は等しいことの証明について正しい記述を選ぶ	証明の必要性和意味を理解している		2(2)イ					○	○		45.0	45.5	0.5	0.6	
9(1)	比例 $y=5x$ について、正しい記述を選ぶ	比例 $y=ax$ における比例定数 a の意味を理解している		1(1)イ					○	○		65.7	65.5	1.1	1.2	
9(2)	比例のグラフから、 x の変域に対応する y の変域を求める	与えられた比例のグラフから、 x の変域に対応する y の変域を求めることができる		1(1)エ				○		○		55.1	55.0	13.8	13.0	
9(3)	反比例のグラフから表を選ぶ	反比例について、グラフと表を関連付けて理解している		1(1)エ					○	○		51.0	52.8	1.4	1.4	
10	点 $(-2, 3)$ の位置を座標平面上に示す	座標平面上に点の位置を示すことができる		1(1)ウ					○	○		71.0	69.9	3.2	2.9	
11(1)	一次関数 $y=2x+7$ について、 x の値が1から4まで増加したときの y の増加量を求める	一次関数 $y=ax+b$ について、 x の値の増加に伴う y の増加量を求めることができる		2(1)イ				○		○		47.0	45.3	16.1	14.8	
11(2)	一次関数 $y=-2x+6$ が表すグラフを選ぶ	一次関数 $y=ax+b$ について、 a と b の値とグラフの特徴を関連付けて理解している		2(1)イ					○	○		55.7	56.3	0.9	0.9	
12	歩いた道のりと、残りの道のりの関係について、正しい記述を選ぶ	一次関数の意味を理解している		2(1)ア					○	○		34.4	36.4	1.0	1.0	
13	グラフから、連立二元一次方程式の解を座標とする点について、正しい記述を選ぶ	連立二元一次方程式の解を座標とする点は、座標平面上の2直線の交点であることを理解している		2(1)ウ					○	○		62.6	62.7	1.9	1.9	
14(1)	生徒35人の靴をサイズごとに調べ、最頻値が25.5cmだったことについて、必ずいえる記述を選ぶ	最頻値は、資料の中で最も多く出ている値であることを理解している		1(1)ア					○	○		67.7	68.4	1.5	1.4	
14(2)	反復横とびの記録の中央値を求める	与えられた資料から中央値を求めることができる		1(1)ア					○	○		71.7	74.0	5.2	4.6	
15(1)	1枚の硬貨を多数回投げたときの表が出る相対度数の変化の様子について、正しい記述を選ぶ	多数回の試行の結果から得られる確率の意味を理解している		2(1)ア					○	○		40.6	40.2	1.8	1.8	
15(2)	大小2つのさいころを同時に投げるとき、和が8になる確率を求める	表などを利用して、確率を求めることができる		2(1)ア					○	○		69.2	71.3	10.6	9.7	

※塗りつぶしは、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率。太枠は5%以上の無解答率。

	H28	H29	H30
平均正答率が全国以上の問題数	11/36問	11/36問	8/36問
無解答率が全国以下の問題数	10/36問	17/36問	19/36問
無解答率が5%以上の問題数	17/36問	16/36問	10/36問

■ 中学校数学B

【概要】

- 平均正答率は46 [45.8] %
- 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、-1.2ポイント (H29) から -1.1ポイントに縮まった。
- 【参考】 平成27年度小学校算数Bの全国の平均正答率との差は、-2.5ポイント。

	生徒数(人)	平均正答数(問)	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北海道(公立)	39,671	6.4 / 14	46 [45.8]	6.0	3.5
全国(公立)	966,908	6.6 / 14	47 [46.9]	7.0	3.5

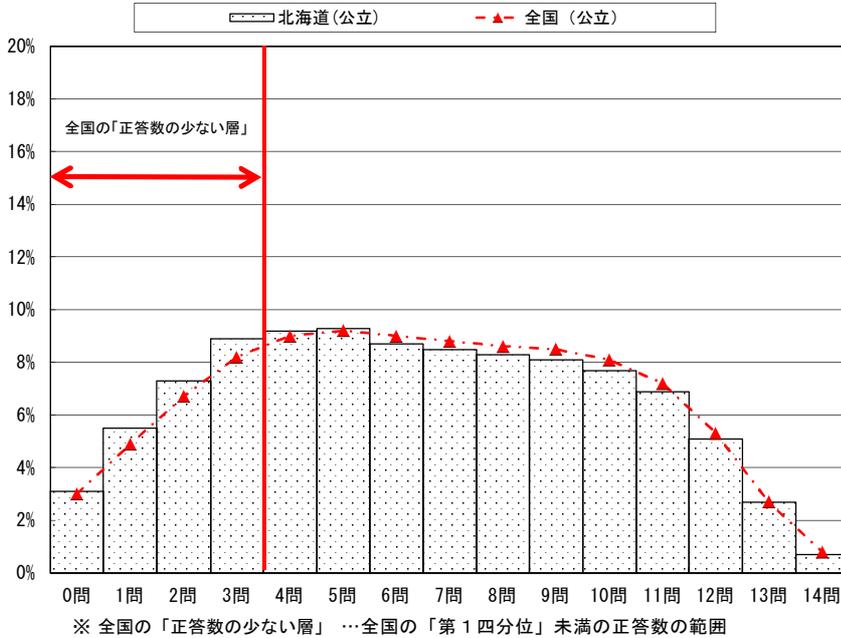
正答数 (生徒の割合(%))		
正答数(正答率)	北海道	全国
14問(100.0%)	0.7	0.8
13問(92.9%)	2.7	2.7
12問(85.7%)	5.1	5.3
11問(78.6%)	6.9	7.2
10問(71.4%)	7.7	8.1
9問(64.3%)	8.1	8.5
8問(57.1%)	8.3	8.6
7問(50.0%)	8.5	8.8
6問(42.9%)	8.7	9.0
5問(35.7%)	9.3	9.2
4問(28.6%)	9.2	9.0
3問(21.4%)	8.9	8.2
2問(14.3%)	7.3	6.7
1問(7.1%)	5.5	4.9
0問(0.0%)	3.1	3.0

(割合は小数第2位以下を四捨五入)

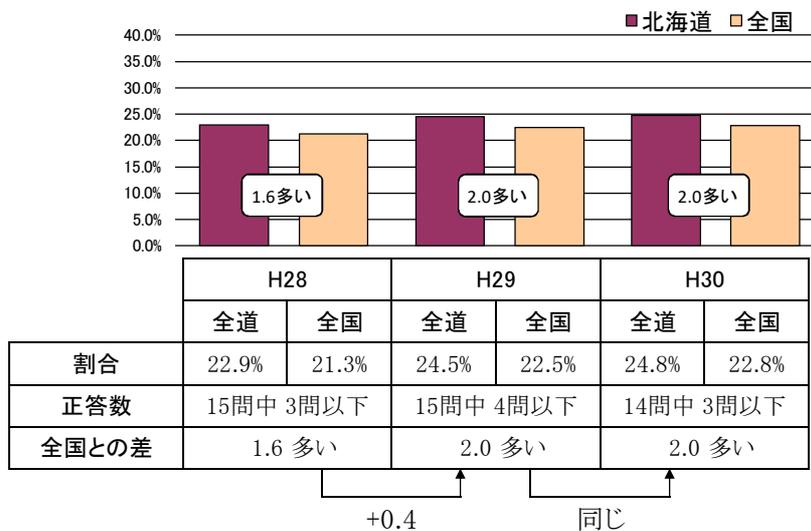
四分位		
	北海道	全国
第3四分位	△ 9.0問	9.0問
第2四分位	◇ 6.0問	7.0問
第1四分位	▽ 4.0問	4.0問

※ 児童生徒を正答数の大きい順に整列し、人数の割合により4つの層に分ける際の分け目を、大きいものから順に「第3四分位」「第2四分位」「第1四分位」として示した。

■ は、全国の「第1四分位」未満の正答数の児童生徒の割合。



全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる児童の割合



【参考】

平成27年度小学校算数B

全道 全国

28.8% 25.2%

全国との差 3.6多い

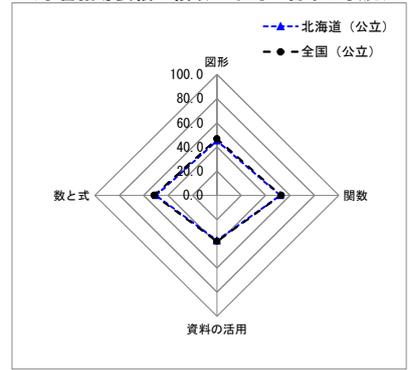
問題別調査結果 [中学校数学B：主として活用]

集計結果

対象学校数	北海道(公立)	全国(公立)	対象生徒数	北海道(公立)	全国(公立)
	589	9,591		39,671	966,908

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)	
			北海道(公立)	全国(公立)
	全体	14	46 [45.8]	47 [46.9]
学習指導要領の領域	数と式	4	49.9	51.4
	図形	3	45.1	46.7
	関数	3	52.0	52.8
	資料の活用	4	37.4	38.0
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0		
	数学的な見方や考え方	10	43.6	45.1
	数学的な技能	4	51.1	51.3
	数量や図形などについての知識・理解	0		
問題形式	選択式	2	61.3	61.5
	短答式	7	55.3	56.2
	記述式	5	26.2	27.9

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



問題別集計結果

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
			数と式	図形	関数	資料の活用	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	選択式	短答式	記述式	北海道(公立)	全国(公立)	北海道(公立)
1(1)	全校生徒3000人に対する上位4曲を回答した生徒数の割合を求める	与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができる				小5数量(3)1(1)イ		○*					54.1	55.7	12.5	11.1
1(2)	放送計画で、1日目がA、2日目がBになる確率を求める	与えられた情報を分類整理し、不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉えることができる				2(1)7.4		○					43.9	43.9	7.9	7.0
1(3)	全校よりも1年生の回答用紙によるくじ引きの方が曲Fが選ばれやすいことの原因を確率を用いて説明する	不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を説明することができる				2(1)イ		○					34.2	36.2	29.3	24.9
2(1)	はじめの数が10のときの計算結果を求める	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	1(1)ウ					○					88.8	89.5	4.7	4.4
2(2)	はじめの数としてどんな整数を入れて計算しても、計算結果はいつも4の倍数になる説明を完成する	事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明することができる	2(1)4.9					○					34.9	37.5	29.0	25.0
2(3)	計算の順番を入れ替えたものを選択し、その計算結果が何の倍数になるかを求める	3つの計算の順番を入れ替えたときの計算結果を数学的に表現することができる	2(1)4.9					○					66.2	68.3	1.3	1.1
3(1)	列車の運行のようすが直線で表されていること的前提となっている事柄を選ぶ	事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを事象に即して解釈することができる				2(1)4.1		○					68.4	67.6	0.3	0.5
3(2)	グラフから、列車のすれ違いが起こる地点のA駅からの道のりを求める	グラフから必要な情報を読み取り、事象を数学的に解釈することができる				2(1)4.1		○					75.8	77.7	8.5	6.9
3(3)	A駅からの道のりが6kmの地点において、列車Aが通ってから列車Bが通るまでの時間をグラフから求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる				2(1)4.1		○					11.6	13.2	38.9	33.4
4(1)	証明されたことから、新たにわかることを選ぶ	証明を振り返り、証明した事柄を基にして、新たな性質を見いだすことができる				2(2)ウ		○					54.3	55.4	0.5	0.7
4(2)	平行四辺形ABCDの外側に2つの点E、Fを取っても、四角形EBFDは平行四辺形となることの証明を完成する	発展的に考え、条件を変えた場合について、証明の一部を書き直すことができる				2(2)4.9		○					40.7	42.4	8.6	6.2
4(3)	平行四辺形ABCDを正方形ABCDに変えたときの四角形EBFDがどのような四角形になるかを説明する	付加された条件の下で、新たな事柄を見だし、説明することができる				2(2)ウ		○					40.5	42.3	28.3	24.6
5(1)	S社の団体料金が通常料金の何%引きになっているかを求める式を書く	与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができる				小5数量(3)		○*					17.4	16.0	27.4	24.1
5(2)	通常料金をaとしたときの団体料金の10人分が通常料金の何人分にあたるかを求める計算からわかることを選び、その理由を説明する	里奈さんの計算を解釈し、数学的な表現を用いて説明することができる				2(1)イ		○					9.8	10.4	9.4	6.6

* 評価の観点は、数量や図形についての知識・理解(小学校)に対応させている。

※塗りつぶしは、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率。太枠は5%以上の無解答率。

	H28	H29	H30
平均正答率が全国以上の問題数	4/15問	2/15問	3/14問
無解答率が全国以下の問題数	2/15問	5/15問	2/14問
無解答率が5%以上の問題数	10/15問	9/15問	10/14問

■ 中学校理科

【概要】

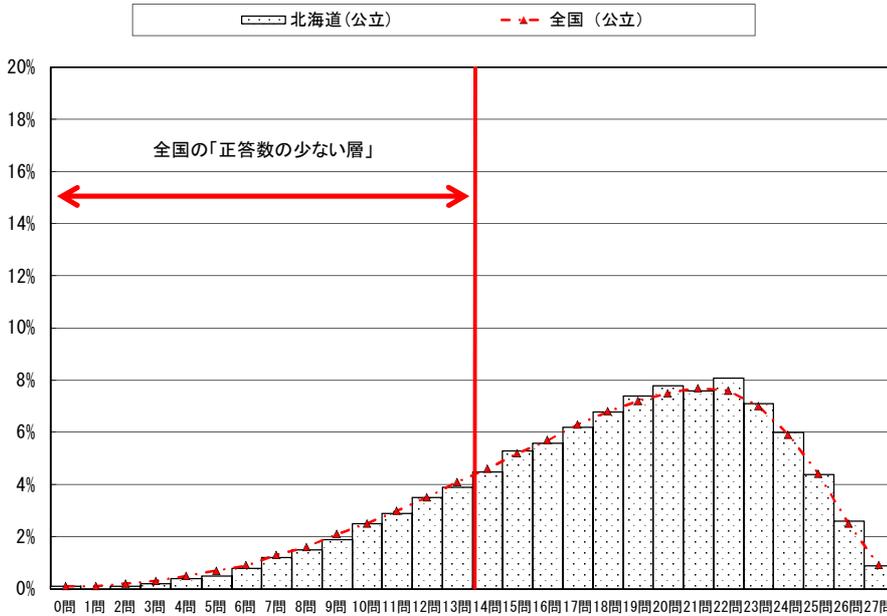
- 平均正答率は67〔66.7〕%
- 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、+0.3ポイント（H27）から +0.6ポイントになり、全国を上回っている。

〔参考〕平成27年度小学校理科の全国の平均正答率との差は、-1.5ポイント。

	生徒数（人）	平均正答数（問）	平均正答率（%）	中央値	標準偏差
北海道（公立）	39,683	18.0 / 27	67〔66.7〕	19.0	5.1
全国（公立）	967,188	17.9 / 27	66〔66.1〕	19.0	5.2

正答数（生徒の割合（%））		
正答数（正答率）	北海道	全国
27問（100.0%）	0.9	0.9
26問（96.3%）	2.6	2.5
25問（92.6%）	4.4	4.4
24問（88.9%）	6.0	5.9
23問（85.2%）	7.1	7.0
22問（81.5%）	8.1	7.6
21問（77.8%）	7.6	7.7
20問（74.1%）	7.8	7.5
19問（70.4%）	7.4	7.2
18問（66.7%）	6.8	6.8
17問（63.0%）	6.2	6.3
16問（59.3%）	5.6	5.7
15問（55.6%）	5.3	5.2
14問（51.9%）	4.5	4.6
13問（48.1%）	3.9	4.1
12問（44.4%）	3.5	3.5
11問（40.7%）	2.9	3.0
10問（37.0%）	2.5	2.5
9問（33.3%）	1.9	2.1
8問（29.6%）	1.5	1.6
7問（25.9%）	1.2	1.3
6問（22.2%）	0.8	0.9
5問（18.5%）	0.5	0.7
4問（14.8%）	0.4	0.5
3問（11.1%）	0.2	0.3
2問（7.4%）	0.1	0.2
1問（3.7%）	0.0	0.1
0問（0.0%）	0.1	0.1

（割合は小数第2位以下を四捨五入）



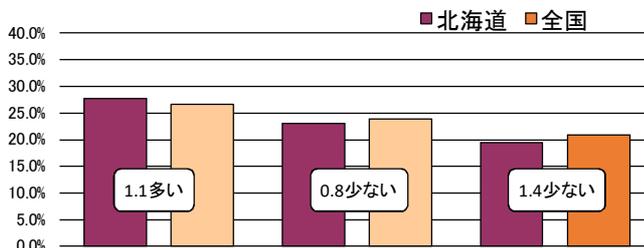
※ 全国「正答数の少ない層」…全国「第1四分位」未満の正答数の範囲

四分位		
	北海道	全国
第3四分位	△22.0問	22.0問
第2四分位	◇19.0問	19.0問
第1四分位	▽15.0問	14.0問

※ 児童生徒を正答数の大きい順に整理し、人数の割合により4つの層に分ける際の分け目を、大きいものから順に「第3四分位」「第2四分位」「第1四分位」として示した。

■ は、全国の「第1四分位」未満の正答数の児童生徒の割合。

全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる児童の割合



	H24		H27		H30	
	全道	全国	全道	全国	全道	全国
割合	27.7%	26.6%	23.1%	23.9%	19.5%	20.9%
正答数	26問中 9問以下		25問中 8問以下		27問中 13問以下	
全国との差	1.1 多い		0.8 少ない		1.4 少ない	

-1.9

-0.6

〔参考〕

平成27年度小学校理科

全道 全国

29.3% 27.4%

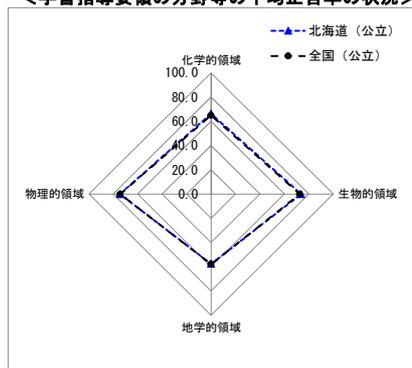
全国との差 1.9多い

問題別調査結果 [中学校理科]

集計結果

対象学校数	北海道（公立） 589	全国（公立） 9,588	対象生徒数	北海道（公立） 39,683	全国（公立） 967,188
分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			北海道(公立)	全国(公立)	
全体					
		27	67 [66.7]	66 [66.1]	
枠組み	主として「知識」に関する問題	11	70.0	67.9	
	主として「活用」に関する問題	16	65.0	64.9	
学習指導要領の分野等	第1分野 物理的領域	7	74.6	74.4	
	化学的領域	8	66.3	65.0	
	生物的領域	6	73.6	72.5	
	第2分野 地学的領域	7	57.6	57.8	
評価の観点	自然事象への関心・意欲・態度	1	73.4	74.0	
	科学的な思考・表現	16	64.8	64.9	
	観察・実験の技能	4	68.6	67.0	
	自然事象についての知識・理解	8	70.3	68.7	
問題形式	選択式	17	71.6	70.9	
	短答式	4	71.3	70.2	
	記述式	6	49.9	50.1	

<学習指導要領の分野等の平均正答率の状況>



問題別集計結果

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があります。それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合があります。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	枠組み		学習指導要領の分野等				評価の観点			問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
			主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題	物理的領域	化学的領域	生物的領域	地学的領域	自然事象への関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解	選択式	短答式	記述式	北海道(公立)	全国(公立)	北海道(公立)
1 (1)	光の反射を利用した「テレプロンプター」のモデルを作って科学的に探究する場面において、光の直進や反射の幾何光学的な規則性についての知識・技能を活用することができるかどうかをみる	光の反射の幾何光学的な規則性についての知識・技能を活用できる	○	(1)ア(7)					○			○			58.0	61.7	0.1	0.1
1 (2)	テレプロンプターのモデルの光の道筋を検討して改善し、適切な光の道筋を説明することができる	テレプロンプターのモデルの光の道筋を検討して改善し、適切な光の道筋を説明することができる	○	(1)ア(7)					○			○			73.3	73.7	0.2	0.2
2 (1)	無脊椎動物と軟体動物の体のつくりの特徴に関する知識を活用できる	無脊椎動物と軟体動物の体のつくりの特徴に関する知識を活用できる	○				(3)ウ(4)		○			○			88.3	86.2	0.1	0.1
2 (2) 低い濃度	理科通信のアサリに興味をもち、アサリが出す砂の質量は何に依存しているのかを科学的に探究する学習場面において、水溶液の濃さや無脊椎動物に関する知識、問題解決の技能を活用できるかどうかをみる	濃度が異なる食塩水のうち、濃度の低いものを指摘できる	○				(2)イ(7)		○			○			77.1	76.5	1.3	1.2
2 (2) 3.0%の濃度		濃度が異なる食塩水のうち、特定の質量パーセント濃度のものを指摘できる	○				(2)イ(7)		○			○			47.8	46.9	1.3	1.3
2 (3)		「アサリが出した砂の質量は明るさに関係しているとはいえない」と考察した理由を指摘できる	○				(3)ウ(4)		○			○			79.3	79.7	0.1	0.2
2 (4)		1つの要因を変えると他のにも変わる可能性のある要因を指摘できる	○				(3)ウ(4)		○			○			63.0	61.3	9.5	9.5
3 (1)	コンピュータを使ったシミュレーションで台風の進路や風向を科学的に探究する場面において、日本の天気の特徴に関する知識・観測方法や記録の仕方に関する知識・技能、条件制御の知識・技能を活用することができるかどうかをみる	風向の観測方法や記録の仕方に関する知識・技能を活用できる	○				(4)ア(7)		○			○			35.8	37.5	0.2	0.2
3 (2)		太平洋高気圧（小笠原気団）の特徴についての知識を身に付けている	○				(4)ウ(7)		○			○			71.2	67.3	0.3	0.4
3 (3)		シミュレーションの結果について考察した内容を検討して改善し、台風の進路を決める条件を指摘できる	○				(4)ウ(7)		○			○			49.2	52.3	8.2	7.9
4 (1)	図書便りに紹介されていたファラデーの「ロウソクの科学」を読んで、ガスバーナーを使った燃焼を科学的に探究する場面において、実験器具の操作や化学変化と原子・分子、条件制御の知識・技能を活用することができるかどうかをみる	ガスバーナーの空気量を調節する場所を指摘できる	○				(2)ア(7)		○			○			77.4	73.4	0.3	0.4
4 (2)		炎の色と金網に付くススの量を調べる実験を計画する際に、「変えない条件」を指摘できる	○				(4)イ(4)		○			○			45.0	44.1	13.7	15.5
4 (3)		化学変化を表したモデルを検討して改善し、原子や分子のモデルで説明できる	○				(4)イ(7)		○			○			49.4	49.4	16.8	16.2
5 (1)	「運転中に運転士に話しかけるとブレーキを踏むのが遅れるのではないか」という予想を科学的に探究する場面において、刺激と反応についての知識と自然の事象・現象を実験の装置や操作に対応させたモデル実験の知識・技能を活用することができるかどうかをみる	神経系の働きについての知識を身に付けている	○				(3)イ(4)		○			○			56.9	57.2	6.1	7.1
5 (2)		反応の時間を測定する装置や操作を計画し、刺激と反応に対応させた実験を計画できる	○				(3)イ(4)		○			○			64.2	62.8	0.4	0.5
6 (1)		電流計は回路に直列に接続するという技能及び電流計の電気用図記号の知識を身に付けている	○				(3)ア(7)		○			○			70.8	70.5	0.2	0.4
6 (2) 電流	自転車のライトの豆電球型のLEDが豆電球に比べて明るく点灯したことに疑問をもって科学的に探究する場面において、電流・電圧と抵抗及び電力と発生する光の明るさとの関係に関する知識・技能を活用することができるかどうかをみる	実験の結果を示した表から電流の値を読み取ることができる	○				(3)ア(7)		○			○			78.4	77.2	11.6	11.6
6 (2) 抵抗		オームの法則を使って、抵抗の値を求めることができる	○				(3)ア(4)		○			○			54.7	51.9	14.1	14.6
6 (3)		豆電球と豆電球型のLEDの点灯の様子と電力との関係を指摘できる	○				(3)ア(7)		○			○			91.7	91.4	0.5	0.6

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	枠組み		学習指導要領の分野等				評価の観点				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
			主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題	第1分野		第2分野		自然現象への関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然現象についての知識・理解	選択式	短答式	記述式	北海道(公立)	全国(公立)	北海道(公立)	全国(公立)
					物理的領域	化学的領域	生物的領域	地学的領域											
7(1)		地震の揺れの強さが震度であること、S波による揺れが主要動であることの知識を身に付けている	○				(2) ア(4)				○	○		55.0	55.1	0.3	0.4		
7(2)	緊急地震速報による避難訓練の後、地震を科学的に探究する場面において、地震の揺れの伝わり方や光と音の伝わり方に関する知識・技能を活用することができるかどうかをみる	緊急地震速報を受け取ってからS波による揺れが始まるまでの時間が最も長い観測地点を指摘できる		○			(2) ア(4)		○			○		77.8	78.5	0.4	0.5		
7(3)		初期微動継続時間の長さや震源からの距離の関係を知識と音の速さに関する知識を活用できる		○	(1) ア(9)		(2) ア(4)		○			○		95.1	94.4	3.1	3.6		
8(1)		アルミニウムの原子の記号の表し方についての知識を身に付けている	○			(4) ア(4)					○	○		86.7	83.5	0.4	0.6		
8(2)	火を使わないで発熱する商品の仕組みを科学的に探究して実験ノートにまとめる場面において、化学変化と熱についての知識と問題解決の知識・技能を活用することができるかどうかをみる	発熱パックに入っているアルミニウムが水の温度変化に関係していることを指摘できる		○		(4) イ(9)			○			○		73.2	72.0	0.4	0.6		
8(3)	また、探究の過程を振り返り、新たな疑問をもち問題を見だし探究を深めようとしているかどうかをみる	探究の過程を振り返り、新たな疑問をもち問題を見だし探究を深めようとしているアルミニウムは水の温度変化に関係していることについての新たな問題を見出すことができる		○		(4) イ(9)		○	○			○	73.4	74.0	21.3	20.3			
9(1)	部屋に見立てた容器に植物を入れて湿度の変化を科学的に探究する場面において、蒸散と湿度に関する知識、問題解決の知識・技能を活用することができるかどうかをみる	植物の葉などから水蒸気が出る働きが蒸散であるという知識を身に付けている	○			(1) イ(4)					○	○		89.7	88.0	0.5	0.6		
9(2)		植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘できる		○		(4) ア(7)			○			○	19.3	19.4	22.0	21.4			

※塗りつぶしは、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率。太枠は5%以上の無解答率。

	H24	H27	H30
平均正答率が全国以上の問題数	6/26問	13/25問	17/27問
無解答率が全国以下の問題数	14/26問	19/25問	22/27問
無解答率が5%以上の問題数	13/26問	9/25問	9/27問

■ 過去の同一問題との比較

- 過去の全国学力・学習状況調査との同一問題（5問）について、全国平均以上の問題は2問。また、全国平均を下回った問題のうち、差が縮まった問題は2問、差が広がった問題は1問。

	全国平均以上の問題の数	全国平均を下回った問題のうち、差が縮まった問題の数	全国平均を下回った問題のうち、差が広がった問題の数
小学校調査	—	—	—
中学校調査	2	2	1

※ 過去の調査とは、平成19～22、24～29年度の全国学力・学習状況調査を指す。

なお、各調査の対象児童生徒や実施時期、問題の全体構成等が異なるため、単純な比較ができないことに留意する必要がある。

〔小学校国語〕 該当なし

〔小学校算数〕 該当なし

〔小学校理科〕 該当なし

〔中学校国語〕

問題	全道	全国	実施年度	全道	全国
	全道－全国			全道－全国	
A 8 三力 適切な語句を選択する（わたしが健康になったのは、 <u>ひと</u> えに母のおかげです）	68.1%	65.4%	平成22年度	64.5%	63.5%
	+2.7			+1.0	

〔中学校数学〕

問題	全道	全国	実施年度	全道	全国
	全道－全国			全道－全国	
A 1 (3) $2 \times (-5^2)$ を計算する	63.1%	68.9%	平成26年度	65.4%	70.7%
	-5.8			-5.3	
A 2 (4) 等式 $S = \frac{1}{2} ah$ を、 a について解く	47.2%	48.2%	平成21年度	39.9%	44.5%
	-1.0			-4.6	
A 6 (2) 五角形の1つの頂点を動かし、角の大きさを 90° に変えたときの内角の和の変化として正しいものを選ぶ	74.6%	75.7%	平成22年度	70.6%	72.8%
	-1.1			-2.2	
A 15 (1) 1枚の硬貨を多数回投げたときの表が出る相対度数の変化の様子について、正しい記述を選ぶ	40.6%	40.2%	平成25年度	34.9%	33.1%
	+0.4			+1.8	

〔中学校理科〕 該当なし

4. 質問紙調査（P3の項目を掲載）

〔児童生徒質問紙〕

児童生徒質問紙調査と学校質問紙調査の比較

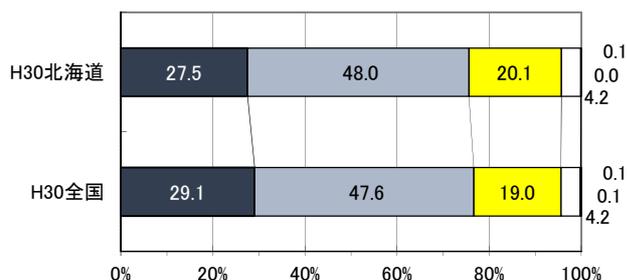
① 「5年生まで〔中：1、2年生のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」（新規）

（児童生徒 質問番号 小55、中52）

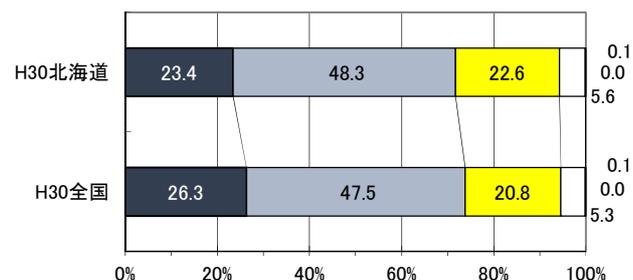
「1. 当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、全国と比べて、小学校で1.6ポイント、中学校で2.9ポイント低い。

■ 1. 当てはまる □ 2. どちらかといえば、当てはまる ■ 3. どちらかといえば、当てはまらない □ 4. 当てはまらない ■ その他 ■ 無回答

〈小学校〉



〈中学校〉



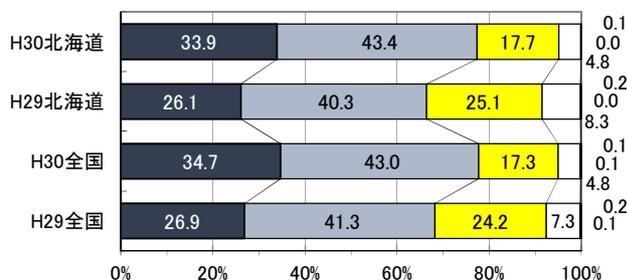
② 「学級の友達と〔中：生徒〕の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」

（児童生徒 質問番号 小57、中54）

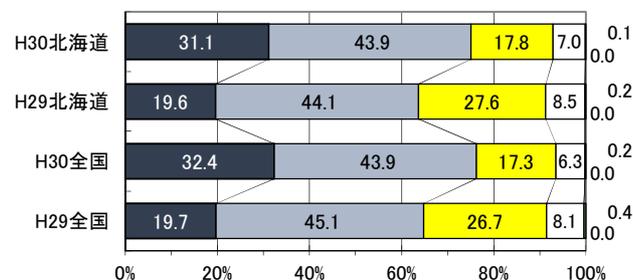
「1. そう思う」と回答している児童生徒の割合は、昨年度と比べて、小学校で7.8ポイント、中学校で11.5ポイント高い。全国と比べて、小学校で0.8ポイント、中学校で1.3ポイント低い。

■ 1. そう思う □ 2. どちらかといえば、そう思う ■ 3. どちらかといえば、そう思わない □ 4. そう思わない ■ その他 ■ 無回答

〈小学校〉



〈中学校〉



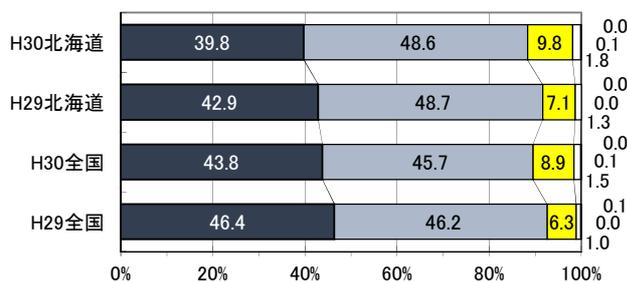
③ 「学校のきまり〔中：規則〕を守っていますか」

（児童生徒 質問番号 小4、中4）

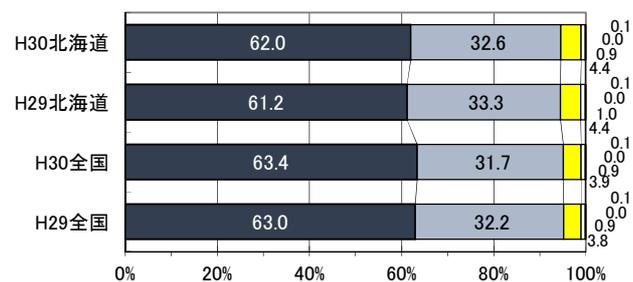
「1. 当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、昨年度と比べて、小学校で3.1ポイント低く、中学校で0.8ポイント高い。全国と比べて、小学校で4.0ポイント、中学校で1.4ポイント低い。

■ 1. 当てはまる □ 2. どちらかといえば、当てはまる ■ 3. どちらかといえば、当てはまらない □ 4. 当てはまらない ■ その他 ■ 無回答

〈小学校〉



〈中学校〉



【学校質問紙】

児童生徒質問紙調査と学校質問紙調査の比較

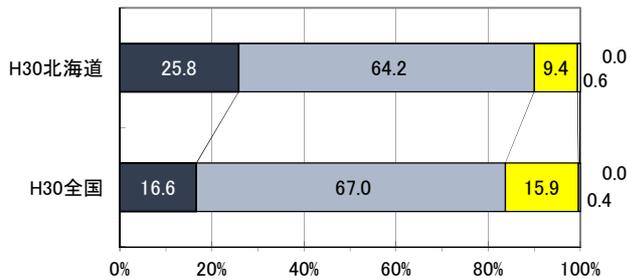
⑨ 「調査対象学年の児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか[中:できていますか]」(新規)

(学校 質問番号 小13、中13)

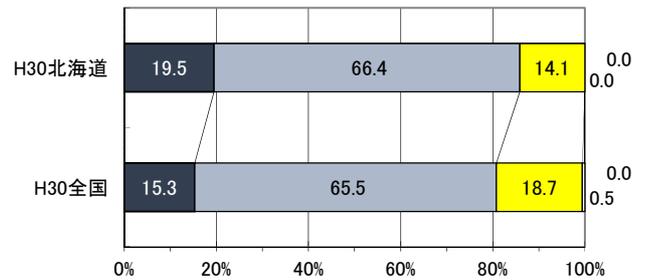
「1. そのとおりだと思う」と回答している学校の割合は、全国と比べて、小学校で9.2ポイント、中学校で4.2ポイント高い。

■1. そのとおりだと思う □2. どちらかといえば、そう思う ■3. どちらかといえば、そう思わない □4. そう思わない ■その他、無回答

〈小学校〉



〈中学校〉



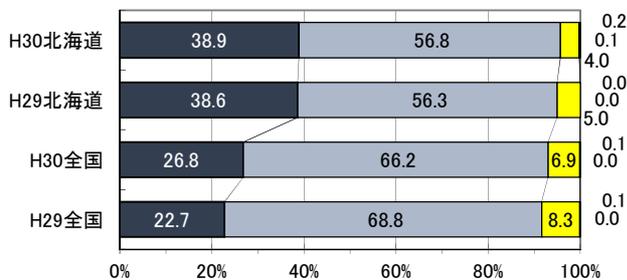
⑩ 「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか」

(学校 質問番号 小22、中21)

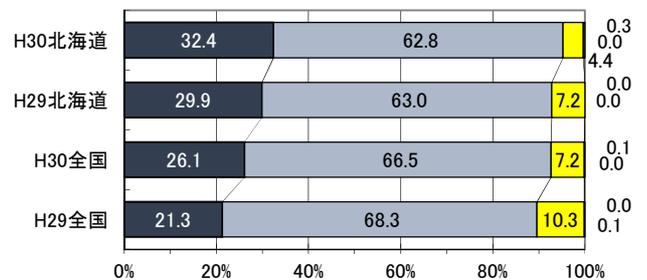
「1. よく行った」と回答している学校の割合は、昨年度と比べて、小学校で0.3ポイント、中学校で2.5ポイント高い。全国と比べて、小学校で12.1ポイント、中学校で6.3ポイント高い。

■1. よく行った □2. どちらかといえば、行った ■3. あまり行っていない □4. 全く行っていない ■その他、無回答

〈小学校〉



〈中学校〉



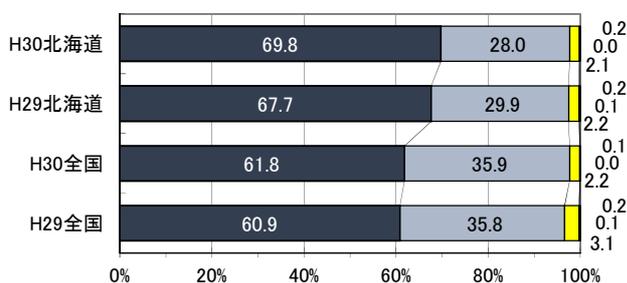
⑪ 「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学習規律(私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど)の維持を徹底しましたか」

(学校 質問番号 小25、中24)

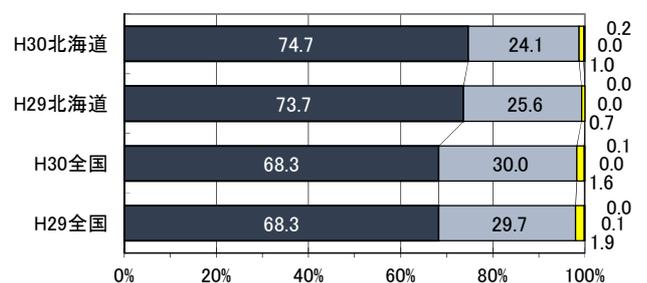
「1. よく行った」と回答している学校の割合は、昨年度と比べて、小学校で2.1ポイント、中学校で1.0ポイント高い。全国と比べて、小学校で8.0ポイント、中学校で6.4ポイント高い。

■1. よく行った □2. どちらかといえば、行った ■3. あまり行っていない □4. 全く行っていない ■その他、無回答

〈小学校〉



〈中学校〉



【児童生徒質問紙】

学習意欲、学習習慣等に関する項目

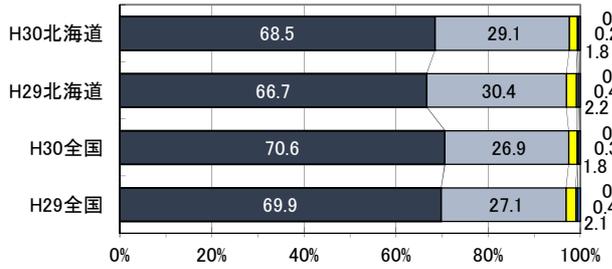
④ 「今回の算数・数学の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。どのように解答しましたか〔中：解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありました。それらの問題で最後まで解答を書こうと努力しましたか〕」

(児童生徒 質問番号 小37、中37)

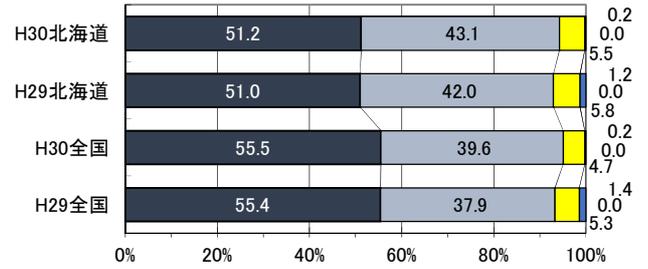
「1. 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答している児童生徒の割合は、昨年度と比べて、小学校で1.8ポイント、中学校で0.2ポイント高い。全国と比べて、小学校で2.1ポイント、中学校で4.3ポイント低い。

- 1. 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した
- 2. 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中で諦めたりしたものがあった
- 3. 書く問題は全く解答しなかった
- その他
- 無回答

〈小学校〉



〈中学校〉



⑤ 「今回の理科の問題について、解答を文章などで書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか〔中：解答を文章などで書く問題がありました。最後まで解答を書こうと努力しましたか〕」

(児童生徒 質問番号 小51、中51)

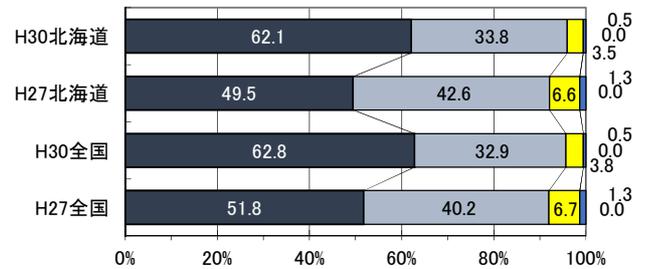
「1. 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答している児童生徒の割合は、平成27年度と比べて、小学校で2.7ポイント、中学校で12.6ポイント高い。全国と比べて、小学校で同じ、中学校で0.7ポイント低い。

- 1. 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した
- 2. 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中で諦めたりしたものがあった
- 3. 書く問題は全く解答しなかった
- その他
- 無回答

〈小学校〉



〈中学校〉



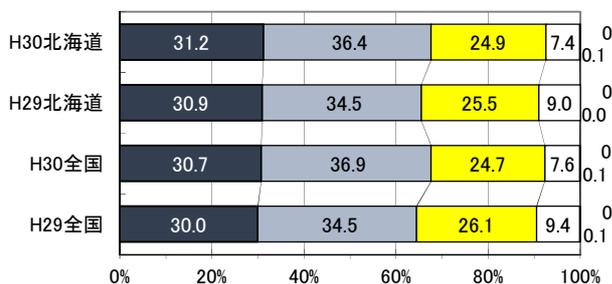
⑥ 「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」

(児童生徒 質問番号 小10、中10)

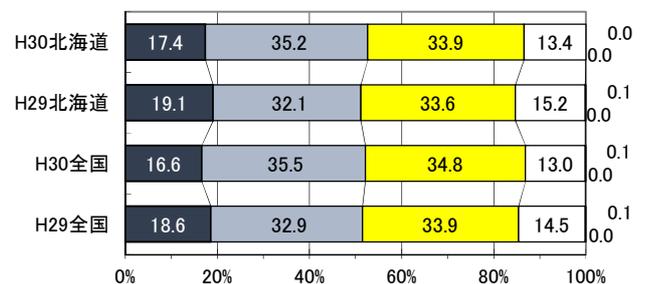
「1. している」、「2. どちらかといえば、している」と回答している児童生徒の割合は、昨年度と比べて、小学校で2.2ポイント、中学校で1.4ポイント高い。全国と比べて、小学校で同じ、中学校で0.5ポイント高い。

- 1. している
- 2. どちらかといえば、している
- 3. あまりしていない
- 4. 全くしていない
- その他
- 無回答

〈小学校〉



〈中学校〉



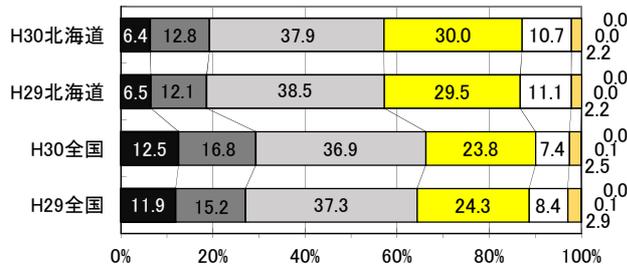
⑦ 「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含む)」

(児童生徒 質問番号 小14、中14)

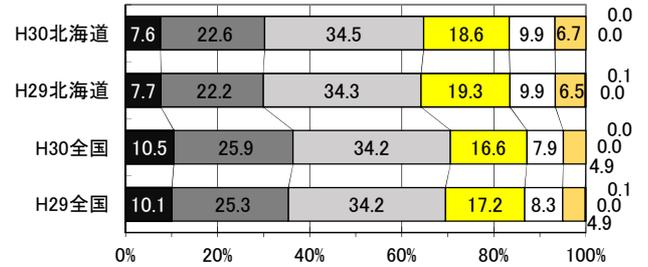
1日当たり1時間以上すると回答している児童生徒の割合は、昨年度と比べて、小学校で同じ、中学校で0.5ポイント高い。全国と比べて、小学校で9.1ポイント、中学校で5.9ポイント低い。

■ 1. 3時間以上 □ 2. 2時間以上、3時間より少ない □ 3. 1時間以上、2時間より少ない □ 4. 30分以上、1時間より少ない
□ 5. 30分より少ない □ 6. 全くしない □ その他 □ 無回答

〈小学校〉



〈中学校〉



【学校質問紙】

カリキュラム・マネジメント等に関する項目

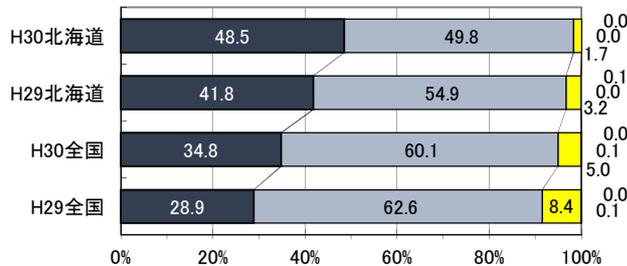
⑫ 「児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか」

(学校 質問番号 小18、中17)

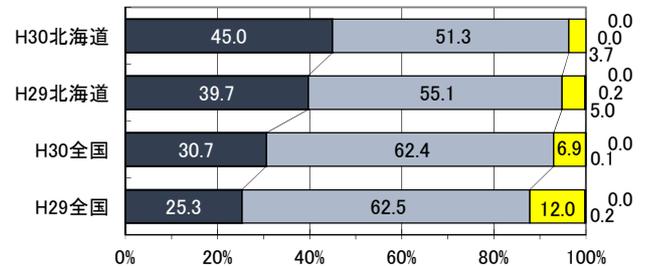
「1. よくしている」と回答している学校の割合は、昨年度と比べて、小学校で6.7ポイント、中学校で5.3ポイント高い。全国と比べて、小学校で13.7ポイント、中学校で14.3ポイント高い。

■ 1. よくしている □ 2. どちらかといえば、している □ 3. あまりしていない □ 4. 全くしていない ■ その他、無回答

〈小学校〉



〈中学校〉



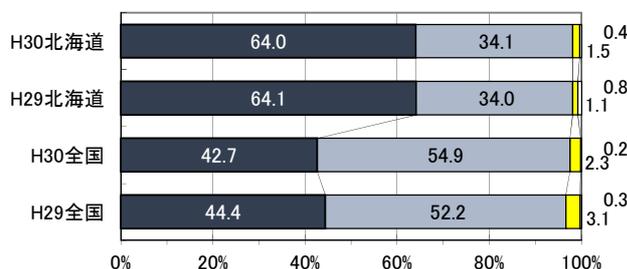
⑬ 「平成29年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか」

(学校 質問番号 小31、中30)

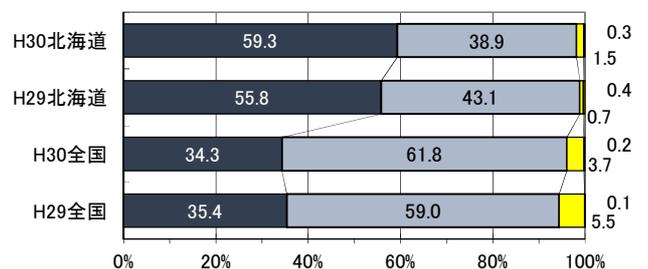
「1. よく行った」と回答している学校の割合は、昨年度と比べて、小学校で0.1ポイント低く、中学校で3.5ポイント高い。全国と比べて、小学校で21.3ポイント、中学校で25.0ポイント高い。

■ 1. よく行った □ 2. 行った □ 3. ほとんど行ってない □ その他、無回答

〈小学校〉



〈中学校〉



⑭ 「校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っていますか」

(学校 質問番号 小72、中69)

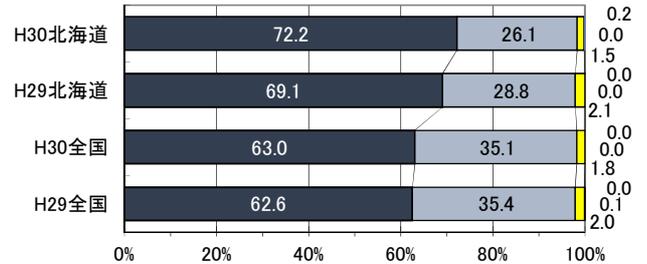
「1. よくしている」と回答している学校の割合は、昨年度と比べて、小学校で2.1ポイント、中学校で3.1ポイント高い。全国と比べて、小学校で3.6ポイント、中学校で9.2ポイント高い。

■ 1. よくしている □ 2. どちらかといえば、している ■ 3. あまりしていない □ 4. 全くしていない ■ その他、無回答

〈小学校〉



〈中学校〉



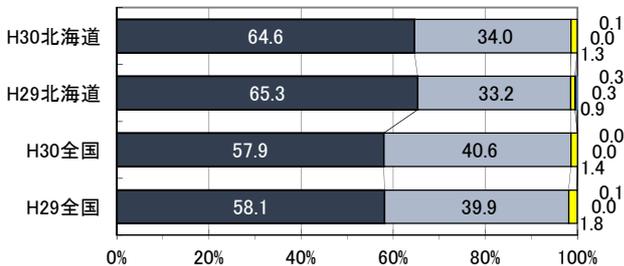
⑮ 「学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか」

(学校 質問番号 小82、中79)

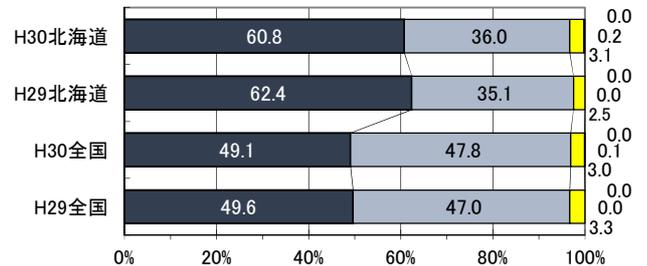
「1. よくしている」と回答している学校の割合は、昨年度と比べて、小学校で0.7ポイント、中学校で1.6ポイント低い。全国と比べて、小学校で6.7ポイント、中学校で11.7ポイント高い。

■ 1. よくしている □ 2. どちらかといえば、している ■ 3. あまりしていない □ 4. 全くしていない ■ その他、無回答

〈小学校〉



〈中学校〉



【児童生徒質問紙】

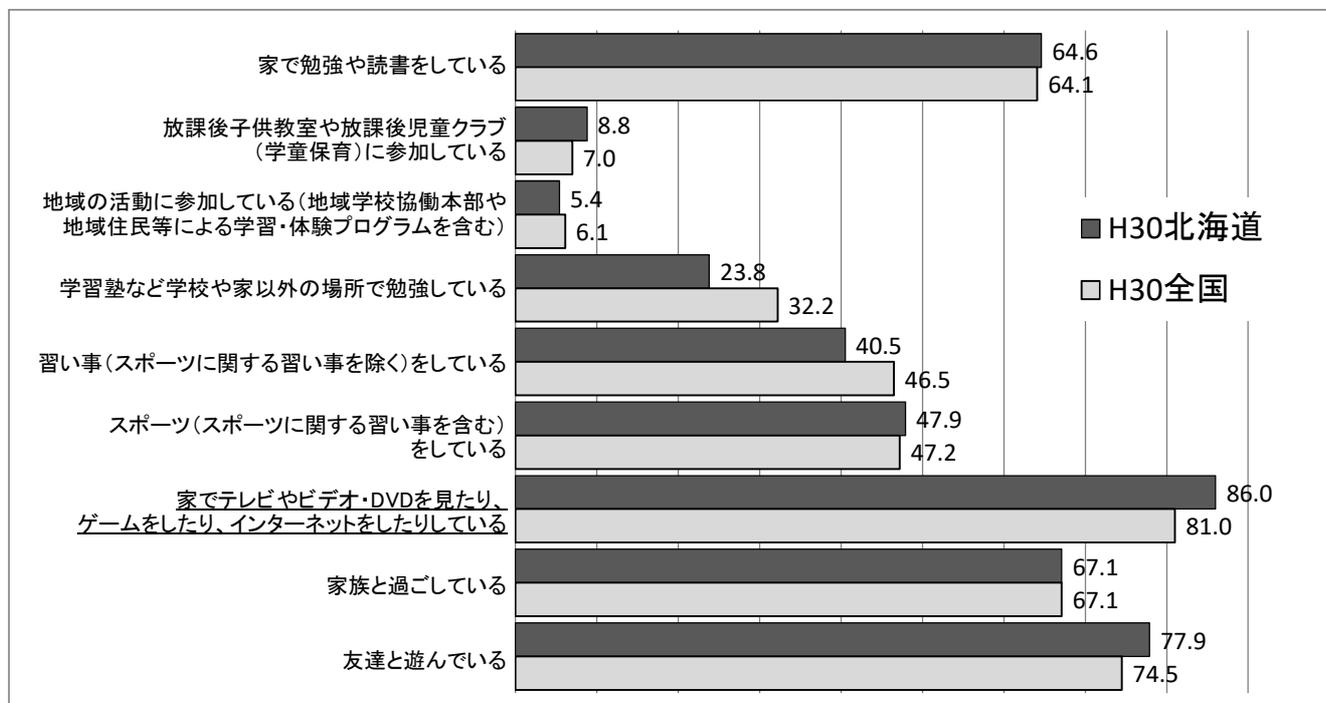
基本的生活習慣等に関する項目

⑧ 「放課後に何をして過ごすことが多いですか」

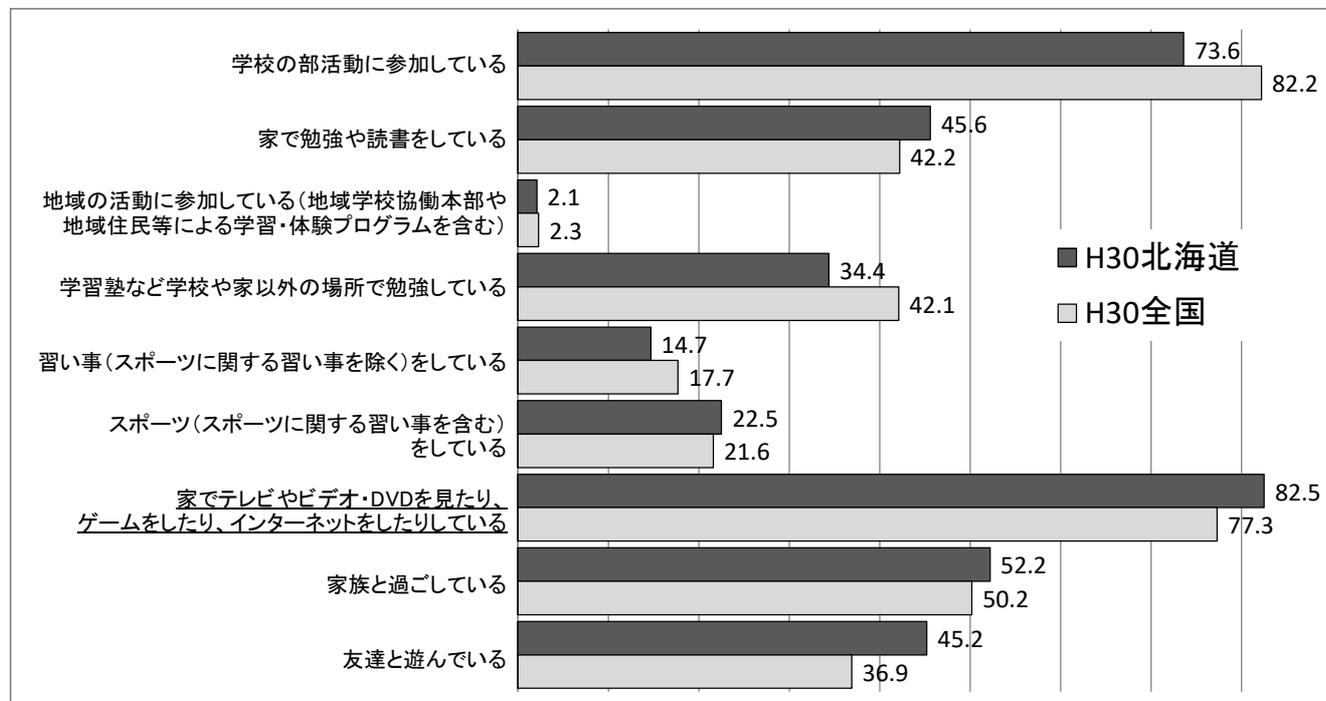
(児童生徒 質問番号 小16、中16)

「家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりしている」と回答している児童生徒の割合は、全国と比べて、小学校で5.0ポイント、中学校で5.2ポイント高い。

〈小学校〉



〈中学校〉



【参考】札幌市を除く北海道の調査結果

- 国は指定都市を除く都道府県の調査結果も公表していることから、「札幌市を除く北海道の調査結果」の概要を掲載します。

1. 調査の概要

	対象学校数(校)	実施学校数(校) (実施率)	児童生徒数(人)
小学校	813	809 (99.5%)	25,234
中学校	491	490 (99.8%)	25,879
合計	1,304	1,299 (99.6%)	51,113

2. 結果の概要

■ 教科に関する調査

各教科の平均正答率

		小学校					中学校				
		国語A	国語B	算数A	算数B	理科	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
平均正答率 (%)	道 (札幌市を除く)	69[69.4] 73 [73.4]	52[52.3] 55 [55.4]	61[61.4] 77 [77.1]	48[47.6] 42 [42.2]	59[58.8] -	76[76.0] 75 [75.4]	60[60.3] 70 [70.4]	64[63.6] 63 [62.6]	44[44.3] 46 [45.5]	66[66.1] -
	国	71[70.7] 75 [74.8]	55[54.7] 58 [57.5]	64[63.5] 79 [78.6]	52[51.5] 46 [45.9]	60[60.3] -	76[76.1] 77 [77.4]	61[61.2] 72 [72.2]	66[66.1] 65 [64.6]	47[46.9] 48 [48.1]	66[66.1] -
平均正答数 (問)	道 (札幌市を除く)	8.3/12 11.0/15	4.2/8 5.0/9	8.6/14 11.6/15	4.8/10 4.6/11	9.4/16 -	24.3/32 24.1/32	5.4/9 6.3/9	22.9/36 22.5/36	6.2/14 6.8/15	17.9/27 -
	国	8.5/12 11.2/15	4.4/8 5.2/9	8.9/14 11.8/15	5.1/10 5.1/11	9.6/16 -	24.3/32 24.8/32	5.5/9 6.5/9	23.8/36 23.3/36	6.6/14 7.2/15	17.9/27 -

※ 道の平均正答率：国が公表した整数値 [道教委が独自に算出した小数値]

※ 国の平均正答率：国が公表した整数値 [国が公表した小数値]

※ 上段は平成30年度、下段は平成29年度

※ 理科の下段は前回の調査において指定都市を除く都道府県の結果が非公表のため掲載なし